

学生番号	
氏名	

農学部履修案内

平成26年度入学生用

茨城大学農学部

【この冊子について】

この冊子は、平成26年度入学生を対象に作成されています。入学年度によって掲載内容が異なることがありますので、注意してください。この冊子は卒業するまで大切に保管してください。

この冊子に掲載されている内容は変更される場合がありますが、その際は、掲示などで周知しますので、見落としの無いよう注意してください。

【memo】

A large rectangular area with rounded corners, containing horizontal lines for writing, resembling a memo pad. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page, leaving a small margin at the top and bottom.

目 次

農学部 of 教育方針	iv
I 農学部 of 教育課程	1
1. 農学部 of カリキュラム概要	3
2. 履修方法	3
3. 単位 of 認定について	4
4. 履修科目 of 申告と登録	5
5. 科目番号制度について	6
6. 集中授業	7
7. 定期試験・追試験	8
8. 他大学及び大学以外 of 教育施設等における学修 of 単位認定について	9
9. 在学年限、修業年限、学籍 of 異動	11
10. 履修上 of 注意	12
11. 成績評価に関する申立制度について	13
12. 農学部において取得できる資格等	14
13. 早期卒業制度について	15
II 専門科目課程表	17
1. 水戸キャンパス開講 of 専門基礎科目（全カリキュラム共通）	19
2. 農学部（阿見キャンパス）開講 of 教養科目	19
3. 生物生産科学科 植物生産科学カリキュラム	20
4. 生物生産科学科 動物科学カリキュラム	22
5. 生物生産科学科 総合農学カリキュラム	24
6. 資源生物科学科 資源生物科学カリキュラム	26
7. 地域環境科学科 地域環境工学カリキュラム	28
8. 地域環境科学科 環境食料政策学カリキュラム	30
9. 地域環境科学科 地域環境保全学カリキュラム	32
10. 教育職員免許状取得のための履修案内（平成26年度以降入学生用）	35
11. 専門基礎科目（水戸地区開講）シラバス	45
III 教育プログラム	49
1. 根力（ねぢから）育成プログラム履修要項	51
2. 食のリスク管理教育プログラム履修要項	55

IV 学生生活	6 1
1. 保健室	6 3
2. 保険制度	6 4
3. 困りごとや悩みごとの相談	6 4
4. ハラスメントの相談	6 5
5. 修学および学生生活上の相談	6 6
6. 農学部における学生支援	6 6
付録	6 9
1. 共通教育棟1・2号館（1階）配置図	7 1
2. 阿見地区（農学部）配置図	7 2
3. 農学部講義棟、こぶし会館平面図	7 3
4. 農学部事務棟、実験研究棟平面図	7 4
5. 茨城大学農学部オフィスアワー（平成26年度）	7 8
6. 平成26年度 農学部1年次生用 時間割（例）	8 0
7. 各種事務手続窓口一覧（阿見地区版）	8 2

農学部教育方針

農学部

【教育目標】

- 「環境と調和した生物資源の生産と利用」、「生物資源の機能性や有用性の科学的理解」をめざす教育を行います。
- 「生命を支える食料と環境」の問題を科学的に理解する総合知識と専門技術を身につけた専門職業人を育成します。
- 「食料・生命・環境に関する総合的な知の力」を備え、多角的な視点から問題解決を行い、21世紀のグローバル社会の中で自立的かつ豊かに生きる市民を育成します。

【ディプロマ・ポリシー】

- 環境と調和した生物資源の生産と有効利用に関する高度な専門知識や技術を身につけた人材を育成します。
- 生命を支える食料と環境の問題について科学的視点から多面的に検討し、解決する力を身につけた人材を育成します。
- 修得した専門知識や技術をグローバル社会の中で活かし、持続的な社会の発展に貢献する意欲を持った人材を育成します。

生物生産科学科

生物生産科学科 植物生産科学カリキュラム

【カリキュラム・ポリシー】

- ・環境との調和を考慮し、安全・安心で高品質な農産物を安定生産して有効に利用するために、作物の栽培、利用、育種、病虫害制御に関する科学技術を学修します。
- ・植物生産における課題の解決に際し、従来の農学を基礎として、バイオテクノロジーやゲノム情報などの先端技術や情報を積極的に活用できる知識と技術を学修します。
- ・講義、実験および実習を通して、植物生産に関する体系的で幅広い知識や基本的な技術を基礎から応用まで段階的に学修します。
- ・専門性の高い卒業論文研究やゼミなどを通して植物生産に関連する諸問題とそれを解決するための方法について深く考え実践する能力を身につけます。

【ディプロマ・ポリシー】

- ・植物生産科学に関する体系的な知識を持ち、さらに、各研究室のゼミや卒業論文研究などを通して身につけた専門知識に基づいて、植物生産や利用に関連する様々な分野で活躍できる人材を育成します。
- ・総合英語プログラムなどの教養教育や課外活動、さらに、研究室で大学院生、留学生、社会人学生など様々な人々とともに学ぶことによって、高いコミュニケーション能力と豊かな人間性を身につけた人材を育成します。

生物生産科学科 動物科学カリキュラム

【カリキュラム・ポリシー】

- ・遺伝形質、繁殖、生理機能、栄養、行動など、動物が持つ基本的な生命現象および動物の健康、飼料、生産物の利用などの動物への人の働きかけについて、体系的に構成されたカリキュラムで学修します。
- ・総合英語プログラムなどの教養科目と一般的基礎科目（生物学、化学等）を学び、学年進行とともに専門科目の講義と実験を通じ、動物科学について多くの知識を習得でき、動物福祉の精神とそのための技術を身につけます。

- ・卒業論文研究で、実験の設計、実施、データ処理、プレゼンテーション技術など高い専門知識と技術を学修します。

【ディプロマ・ポリシー】

- ・地球に優しい動物生産・農業システムの構築や地球規模の食料・環境・エネルギー問題を深く考えるための知識を身につけた人材を育成します。
- ・様々な人々とともに動物科学を学ぶことにより、高いコミュニケーション能力と動物福祉の精神をも兼ね備えた人材を育成します。
- ・国内外の動物生産に関わる研究機関、行政、企業で専門知識と広い視野を生かして活躍できる人材を育成します。

生物生産科学科 総合農学カリキュラム

【カリキュラム・ポリシー】

- ・講義・演習・実験を通して農作物生産、畜産物生産の基礎的知識を学ぶとともに、植物・動物それぞれの専門教育をどちらかに偏ることなく幅広く学修します。
- ・農業経済や農業政策など他学科の専門科目も学修でき、農学全体を幅広く身につけることができます。
- ・卒業論文研究に代わる時間を、農業生産に関わるより高度な知識、学際的な知識、実習、インターンシップに活用でき、希望により国際経験を積む期間として利用することができます。

【ディプロマ・ポリシー】

- ・農作物生産、畜産物生産および地域環境に関する幅広い知識と技術を習得し、すぐれた総合能力を有し、持続的社会の発展に貢献できる農業経営者、農業改良普及員や食品流通業界で活躍できる人材を育成します。
- ・自ら知的探究心を深めて、知識を形成していくことによって、社会において活躍するための責任感や自主性といった能力を持った人材を育成します。

資源生物科学科

【カリキュラム・ポリシー】

- ・生命活動を支える様々な物質を資源としてとらえ、生物資源の新たな機能を探り出し、生命、食料、環境に関するグローバルな諸問題の解決のために必要な知識と技術を学修します。
- ・生命、食料、環境の分野でバイオテクノロジーを基盤とする高い専門能力を発揮できる人材を育成するため、「生命化学」、「食品科学」、「微生物学」および「生態化学」を4本柱とし、食品衛生管理者等任用資格の取得にもつながるカリキュラムに基づいて、基盤的な講義科目と発展的な専門講義科目、および実験科目を体系的に学修します。
- ・卒業論文研究では、生命、食料、環境に関わる社会的要請の高い諸問題やその解決法について研究することを通して、論理的思考力、独創力やプレゼンテーション能力を総合的に修得します。

【ディプロマ・ポリシー】

- ・生物資源と生物機能の科学と利活用に関する体系的かつ専門的な知識と技術、およびグローバルな視点を持ち、生命、食料、環境に関わる分野で活躍できる人材を育成します。

地域環境科学科

地域環境科学科 地域環境工学カリキュラム

【カリキュラム・ポリシー】

- ・農業生産基盤や地域環境に関する専門的な知識を学ぶことにより、生産性が高く環境との調和がとれた農業および地域発展、農業活動に起因した環境問題について、自らが考え解決方法を提案できる力を身につけます。
- ・まず基礎となる水や土に関する知識について学び、その応用として水田や水利構造物の整備・

設計方法、安全で適切な運用方法に関する考え方を身につけます。また、実験や実習等の体験型授業を多く履修し、地域の具体的な課題を卒業論文研究に取り上げ、農業や環境に関する知識と技術を身につけます。

- ・国家公務員の試験区分「農業農村工学」、都道府県など地方公務員の試験区分「農業土木」「総合土木」に対応したカリキュラムであり、卒業時には測量士補の資格を取得できます。

【ディプロマ・ポリシー】

- ・農業生産基盤や地域環境に関する専門的な知識をもとに、農村地域における生産環境の向上や地域資源を持続的に利活用するための技術分野で活躍できる人材を育成します。
- ・食と農、あるいは地域環境に関する問題が生じている現場で、その対象地域を総合的に診断し解決策を提案できる、また地域社会の発展に貢献できる人材を育成します。
- ・地域行政に取り組む国や県の公務員、環境と調和した水利構造物の設計を手掛ける建設コンサルタント、地域の自然環境を評価する環境コンサルタントとして活躍できる人材を育成します。

地域環境科学科 地域環境保全学カリキュラム

【カリキュラム・ポリシー】

- ・土壌や農地、水をはじめとする食料生産基盤に関する科目と、経済学や社会学などの農村社会の理解につながる科目との両軸を基礎に置き、地域環境保全に関して総合的に学びます。
- ・生産基盤および農村に関する幅広い知識を土台とした政策学、計画学を修めることによって、環境保全を目指した地域社会のあり方について自ら考えられるような論理的思考能力と実践力を身につけます。
- ・机上での学習のみでなく、実験・実習、ゼミナール（基礎、発展）および卒業論文などの体験的・実践的な学習をも通して、理論と実践とのバランスがとれた現実対応能力、地域環境の保全に対し多様な観点から対処できる総合力を学修します。

【ディプロマ・ポリシー】

- ・生産基盤の整備および農村社会の活力再生を両軸とした幅広い基盤を習得することにより、地域の環境保全に向けて実践的に活躍できる地域社会の担い手を育成します。
- ・環境保全に関わる総合的な知識および実践力を活かして、都道府県および市町村の公務員、ならびに地域活動を中心的に推進する存在として、主体的に活動できる人材を育成します。

地域環境科学科 環境食料政策学カリキュラム

【カリキュラム・ポリシー】

- ・経済学、社会学、政策学など社会科学と、食料や環境などに関する自然科学の科目の学習を通じて、自然共生型社会の創出に向けた、基礎と応用、発展的理論などを学びます。
- ・地域社会調査実習、ゼミナール（基礎、発展）など実践的な学習を通じて、具体的な課題への対応力を磨き、環境保全や産業発展を担う地域社会のリーダーとしての素養と実践力を身につけます。
- ・卒業論文研究などを通して、自然共生型社会の構築に不可欠な、深い洞察力、論理的思考能力、独創的能力、問題解決能力、主体的実践能力などを総合的に身につけます。

【ディプロマ・ポリシー】

- ・環境や農業に関する俯瞰的素養の上に社会科学を学習することで、政策の形成や市民活動を通じて、環境と人間が調和できる自然共生型社会の構築に貢献できる地域リーダーを育成します。
- ・食料の生産や流通をめぐる政治、経済、社会現象に関わる専門的な知識を学習することで、安全で安定的な食料供給や消費活動を実現しうる産業と社会システム構築に貢献できる人材を育成します。
- ・環境や食料に関する国際的な動向への視野を身につけ、行政運営、企業経営、市民活動を通じた地域社会の活性化に寄与できる担い手を育成します。

I 農学部^の教育課程

1. 農学部のカリキュラム概要

1) カリキュラムの概要

農学部学生は、1年間は水戸キャンパスにおいて主として教養科目を履修し、2年次から農学部（阿見キャンパス）に移り、専門科目を履修することになります。農学部には、各学科にそれぞれ複数のカリキュラムが用意されています。

2) カリキュラムの決定

カリキュラムの決定は、1年次後学期または2年次に農学部（阿見キャンパス）へ移動してきた学年初めのガイダンス時に行います。

2. 履修方法

1) 卒業要件

農学部の卒業資格を得るためには、次の表にかかげる単位数を修得しなければなりません。

これらの単位を修得し、卒業要件を満たした者には学士（農学）の学位が授与されます。

卒業に必要な修得単位数

学科	カリキュラム	教養科目	専 門 科 目			最低修得単位数
			必修科目	選択必修科目	小計	
生物生産科学科	植物生産科学	38以上	59	10以上		84以上
	動物科学		58	10以上		84以上
	総合農学		29	8以上		84以上
資源生物科学科	資源生物科学		64	12以上		80以上
地域環境科学科	地域環境工学		62	—		76以上
	環境食料政策学		44	① 12以上	② 6以上	76以上
	地域環境保全学	47	① 12以上	② 4以上	③ 4以上	76以上

※教養科目最低単位数（38単位）と、各カリキュラムの専門科目小計の最低単位数を合計しても、卒業要件の124単位に足りませんので、注意してください。その差分は教養科目、専門科目、自由履修科目を履修してください。

2) 履修方法

卒業要件を得るための履修方法を説明します。

①教養科目（合計38単位）

共通基礎科目（10単位）

外国語科目（6単位）、健康・スポーツ科目（2単位）、情報関連科目（2単位）

主題別科目（20単位）

分野別教養科目（人文の分野4単位、社会の分野4単位 計8単位）

分野別基礎科目（自然系6単位）

総合科目（4単位、うち就業力育成・ステップアップ系科目から2単位以上）

主題別ゼミナール（2単位）

教養科目選択履修（8単位）

共通基礎科目、主題別科目（主題別ゼミナールを除く）から8単位を履修します。

具体的には、外国語科目、分野別教養科目（人文の分野、社会の分野、自然の分野）、分野別基礎科目（人文系・社会系・自然系）、総合科目から履修します。

農学部教養科目標準履修モデル

区分 年次	教養科目										計	〈参考〉 専門基礎科目	
	共通基礎科目				主題別科目				教養科目 選択履修				
	外国語科目		健康 スポーツ 科目	情報 関連 科目	分野別 教養科目		分野別 基礎 科目	総合 科目 ※2	主題別 ゼミ ナール	共通基礎科目、主題別科目（主題別ゼミナールを除く）から履修			
	総合 英語 ※1	未修			人文	社会							自然
1年	2+2	(2)	1	2	4	4	6	2	2	8	33	8	
2年	2	—	1	—			—	2	—		5	1	
必要 単位数 合計	6		2	2	4	4	6	4	2	8	38	9	
	10				20								

※1 総合英語は4単位必修で、かつ「レベル3」以上を2単位以上修得していることが卒業要件です。

※2 就業力育成・ステップアップ系科目から2単位以上修得することが卒業要件です。

②専門科目

各学科・カリキュラムには、必修科目、選択必修科目、選択科目が指定されています。

各学科・カリキュラムごとに定められた単位数を修得することが必要です。

専攻する学科・カリキュラムによって、必要単位数が異なりますので、所属するカリキュラムの課程表で必ず確認してください。

- ・必修科目：卒業要件として各学科・カリキュラムで必ず修得しなければならない科目です。
- ・選択必修科目：各学科・カリキュラムで指定された科目の中から選択して履修し、必要単位数を修得しなければならない科目です。
- ・選択科目：各学科・カリキュラムの所定の科目の中から選択して履修する科目です。

③自由履修科目

所属する学科のカリキュラム課程表に記載されていない農学部専門科目や他学部の専門科目は、「自由履修科目」として認定されます。自由履修科目は卒業要件単位数に含まれます。

※「教職に関する科目（中等教育教師論、教育の本質と理念など）」および「教科に関する科目（化学実験）」は、自由履修に含まれません。

※他学部の専門科目を履修する場合は、各学期の履修登録期間内に学務係に申し出てください。

3. 単位の認定について

1) 単位と学習時間

各授業科目は、45時間の学修を必要とする内容（予習・復習など自宅学習を含む）をもって1単位と定められています。授業は講義・演習（1時間の授業につき、2時間の予習・復習を必要とするもの）と実験・実習（2時間の授業につき、1時間の予習・復習を必要とするもの）によって構成されています。

授業の種類	1 単位時間数の内訳		週 1 講時 (2時間×15週)
	大学での学習	自宅学習 (予習・復習)	
講義・演習	15時間	30時間	2単位
実験・実習・実技	30時間	15時間	1単位

2) 学期と時間割

茨城大学では、4月から9月までを前学期、10月から3月までを後学期としています。学期ごとにどの授業も15回（週に1回の場合）を実施できるように学年暦が定められています。1日の授業は、5つの時間帯に分けられ、それぞれ1講時～5講時と呼んでいます。

3) 単位の認定

成績評価は、試験・レポート等によります。

4) 評価

成績の評価は、A⁺、A、B、C、Dの5段階とし、A⁺からCを合格とし所定の単位が与えられ、Dは不合格とし単位が与えられません。

区分	評点基準	評価の内容
A ⁺	90 点以上～100 点以下	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80 点以上～90 点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70 点以上～80 点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60 点以上～70 点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60 点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

- 5) 成績には、A⁺、A、B、C、Dの評価の他、「欠試」が記録され、「成績通知表」に掲載されます。ただし、「成績証明書」には単位を修得した授業科目名、単位数及びA⁺、A、B、Cの評価のみが掲載されます。
- 6) 同じ授業科目を2回以上履修しても、これを1科目以上には認められません。ただし、単位の累加が認められているものは、この限りではありません。単位の累加が認められる授業科目については、各カリキュラムの課程表を参照してください。
- 7) 1 授業科目について所定の単位数の一部を与えることはできません。
- 8) 一度修得した単位及び評価は取り消すことはできません。
- 9) GPA (Grade Point Average) 制度について

学生自身が、学内での自分の成績の相対的な位置づけを認識し、意欲的に学修を進めていくことができるようにGPA制度を導入しています。

GPAとは、個々の学生の学修時間当たりの学習到達度を表す指標となる数値で、履修した授業科目のGP (Grade Point) に当該科目の単位数を乗じた値を履修した全科目について総計し、その値を履修した総単位数で除して算出する平均値 (Average) をいいます。

当該学期における学修の状況および成果を示す指標としての「学期 GPA」と在学中の全期間における指標としての「通算 GPA」の二つがあります。不合格科目を再履修して合格となった場合、「通算 GPA」は再履修をした科目の成績に置き換えて再計算されます。

GPAの算出方法

$$GP = (100 \text{ 点満点の得点} - 55) / 10 \text{ (ただし、} GP = 0.5 \text{ 未満は} 0.0 \text{ とします)}$$

$$GPA = (\text{履修登録科目の} GP \times \text{当該科目の単位数}) \text{ の総和} / \text{履修科目の総単位数}$$

(GPAは小数点第3位を四捨五入し、第2位までを表示します)

※教職科目はGPAに算入されません。

※履修取消期限(次ページ参照)までに履修登録を取り消した科目はGPAに算入されません。

4. 履修科目の申告と登録

- 1) 履修科目が決定したならば、各授業科目担当教員に「受講票(履修科目申告票)」を提出し、受講の承認を得なければなりません。
- 2) 次に、履修登録期間中に大学内のパソコンで教務情報ポータルシステム「Live Campus」にアクセスして、Web上で履修登録を行ってください。履修登録期間内に随時、登録・修正を行い、変更の必要がないことを確認してから登録完了を行ってください。
- 3) 履修登録期間後には、「履修登録内容修正期間」が設けられています。この期間中は、Live Campusで履修登録内容を修正することができます。登録内容に誤りの無いよう、各自もう一

度、確認してください。

- 4) 卒業論文など通年開講の授業科目については、前学期の履修登録期間に登録してください。
後学期に再度登録する必要はありません。
- 5) 集中授業の実施時期等については、その都度掲示でお知らせしますので、掲示物の見落としに注意してください。
- 6) 「プレゼンテーション技術論」・「ゼミナール（基礎）」・「ゼミナール（発展）」・「卒業論文」は各カリキュラムで振り分けられた担当教員を選択して履修してください。担当教員は「オフィスアワー」を参照してください。
- 7) 二重申告（曜日講時が同じ科目を複数登録すること）はできません。

●LiveCampus アドレス：<https://i-student.ibaraki.ac.jp/>

●履修登録期間及び修正期間

1 年次（2 年次以降の履修登録期間については、掲示などで確認してください。）

[前学期] 登録期間：平成26年 4月18日（金）～平成26年 4月24日（木）

修正期間：平成26年 4月25日（金）～平成26年 4月30日（水）

[後学期] 登録期間：平成26年10月 8日（水）～平成26年10月15日（水）

修正期間：平成26年10月16日（木）～平成26年10月17日（金）

授業科目担当教員の承認、教務情報ポータルシステムでの履修登録を経て、履修登録が完了します。これら一連の手続きを済ませなくては、履修登録が完了したことにはなりません。教務情報ポータルシステムに履修登録がなされていない場合は、成績が認められません。履修登録が済んでいるか否かは、教務情報ポータルシステムで確認できます。

●履修の取り消しについて

Live Campus の上記履修登録期間および修正期間終了後、履修を取り消したい科目がある場合は、以下の期日までに履修取消手続を行ってください。

履修登録を取り消す場合は、「追加（削除）履修登録申請書」に必要事項を記入し、学務係に提出してください。履修取消手続を行わない科目は成績評価およびGPA 算出の対象となります。

[履修取消期日]

前学期・通年科目 平成26年 5月30日（金）

後学期科目 平成26年11月28日（金）

（集中講義については、講義最終日）

履修取消期限経過後にやむを得ない事情（病気、事故等）により履修の登録を取り消したい場合は、学務係に申し出てください。

●CAP 制について

1 単位あたりに必要な学修時間を確保し、各年次にわたって適切に履修することで学修の質を向上させることを目的とし、CAP 制を設けています。各期履修登録できる科目の上限単位数は、29 単位です（ただし、卒業要件外科目・集中講義についてはこの限りではありません）。

なお、成績が極めて優秀な学生（学期 GPA 値 3.0 以上）については、29 単位を超える履修を認めることがあります。その場合は所属する学科の学生担任に相談してください。

教務情報ポータルシステム（Live Campus）では、25 単位を履修登録した時点で PC 画面に警告が出ます（残り 4 単位まで履修登録可）。システム上、各期 29 単位を超えて履修登録することはできませんので、注意してください。

単位互換協定を結ぶ他大学等における履修も CAP 制の登録上限単位数に含まれます。

●成績が極めて優秀な学生（学期 GPA 値 3.0 以上）について

履修する学期の直前の学期（例えば、前期履修の場合、前年度後期の成績）の学期 GPA 値が 3.0 以上の者とする。

●学習時間の考え方について

大学での授業時間の他に「自習学習時間として、『大学での授業時間の2倍の時間』を予復習に充てる」ことが、大学生には求められます。このため、農学部学生が履修登録できる上限単位数を設けています。

5. 科目番号制度について

農学部では各カリキュラムの専門科目について科目の学修段階や順序（専門性のレベル）等の体系性を明らかにするために、「科目番号制度」を導入しています。科目番号は、各専門科目課程表に 100 番台から 400 番台で示されています。以下の科目群の説明のように、100 番台から始まり、200、300、400 番台と数字が大きくなるほど基礎的な内容の科目群から専門性が高く実践的な内容の科目群となっています。

100 番台：農学および自然科学に関する基礎学力を身に付ける科目群

高等学校および教養科目で学んだ知識をもとに、学習内容に即した教材を活用して農学および自然科学に関する基礎学力を習得します。

200 番台：専門科目を学修するための基本的知識を習得する科目群

各分野での基礎的素養・知識を身につけ、その後の専門科目の積み上げの準備をします。また、専門分野と関連する周辺隣接分野に関する基礎的理解を行う科目も配置されています。

300 番台：高度な専門性を習得するための科目群。特殊性の高い専門科目群

200 番台で身につけてきた専門的知識・能力を活かしながら、より専門性の高い知識・能力を習得します。また、自身の将来の方向性を考慮し、選択的に履修できるような特殊性の高い専門科目も配置されています。

400 番台：課題解決能力を獲得するための科目群。実践的能力を習得する科目群

100 番台から 300 番台で身につけた専門的知識・能力をもとに、課題解決能力の獲得に必要な高度な専門的知識、経験を習得するための科目です。また、社会へのつながりを意識し、専門的職業人として将来にわたり活用できる実践的能力を身につけ、定着させる科目も配置されています。

6. 集中授業

集中授業は、学期中の平日又は土・日曜日、祝祭日、休業期間中に集中的に開講される授業科目を指します。授業の種類（講義、演習、実験、実習、実技）によらず実施されます。2 年次生以上を対象に開講される実験科目など、必修科目が集中授業として開講されることもありますので、注意してください。

集中授業の実施時期・受講資格等については、その都度掲示でお知らせしますので、見落としの無いよう十分に注意してください。集中授業の履修を希望する場合は、授業科目ごとに定められた履修登録期間内に教務情報ポータルシステムで履修登録する必要があります。

なお、集中授業の受講に伴い、通常授業を欠席しなくてはならない場合があります。この場合でも、通常授業の欠席について特段の配慮（通常授業を出席扱いとするなど）がなされるわけではありません。

7. 定期試験・追試験

1) 定期試験

定期試験は、前学期末及び後学期末に行います。時間割は1週間前までに掲示します。

2) 受験資格

定期試験を受けるためには、各履修科目の授業総時間数の3分の2以上出席することが必要です。

3) 追試験

定期試験に、疾病、両親等の死亡、交通機関の運行停止、その他やむを得ない事情により欠席したものは、診断書その他事由を証明するものを添え、定期試験終了後1週間以内に学部長に願い出て追試験を受けることができます。希望する者は、学務係に問い合わせてください。

4) 茨城大学定期試験受験心得

- (1) 試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。
- (2) 試験開始後30分までは退室を認めない。
- (3) 受験にあたっては学生証を机の右上に置くこと。学生証を所持しない学生は、受験を認めないことがある。
- (4) 机の上に置けるものは、学生証の他、筆記具（筆箱は含まない）、消しゴム、時計（時計機能のみ）とする。ただし、出題者が認めたものは置いてよい。
- (5) 教科書及びプリント等の資料については、監督者の指示に従いかばん等に収納すること。
- (6) ハンカチ、ティッシュペーパー、目薬等の使用を希望する学生は、監督者に申し出て許可を受けてから使用すること。
- (7) 試験室内では携帯電話の電源は切って、かばん等に入れておくこと。
- (8) 試験中に監督者の指示、注意事項を守らない場合は退席させることがある。
- (9) カンニングペーパーを利用するなど、不正な手段により答案を作成することは不正行為に該当する。
- (10) 試験において不正行為をした学生及びこれを幫助した学生は、学則に基づき懲戒処分となる。不正行為及び懲戒については「不正受験に関する取扱いについての申合せ」及び「茨城大学学生懲戒指針」に定める。

「不正受験に関する取扱いについての申合せ（抜粋）」（平成17年11月15日 中央学生委員会決定）

2 単位の取扱い

不正受験により懲戒が決定された場合には、当該不正受験を行った学期の履修科目のうち、試験（レポートを含む。）によって成績を評価する全ての単位について、原則として認定しないものとする。

3 共謀の取扱い

共謀による試験の不正行為にあつては、依頼者及び被依頼者とも原則として同一の処分とする。

8. 他大学及び大学以外の教育施設等における学修の単位認定について

次の表に該当する場合、単位認定の申請をすることができます。審査の結果、その単位等の修得に際しての学修が、茨城大学で開講する授業で単位を修得するための学修と同等の内容と認められれば、茨城大学の授業を受講したものとして単位が認められ、60単位を上限として卒業に必要な単位に算入することができます。

単位互換協定を結ぶ他大学等における修得単位・学修	<ul style="list-style-type: none"> ① 放送大学（教養科目のみ） ② 福島大学・宇都宮大学（1年次生前学期履修不可） ③ 茨城工業高等専門学校及び福島工業高等専門学校 ④ 茨城県立医療大学 ⑤ 茨城キリスト教大学 ⑥ 海外の大学における学修
大学以外の教育施設等における学修 (この場合の単位認定の成績評価は「A（表示はNA）」となります。)	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 実用英語技能検定試験／準1級及び1級合格 ⑧ ケンブリッジ大学英語検定試験／CPE, CAE, FCE合格 ⑨ TOEFL及びTOEIC【TOEFL（ITP）及びTOEIC（IP）を含む】 ⑩ ドイツ語技能検定試験／4級及び3級合格 ⑪ 中国語検定試験／準4級、4級及び3級合格 ⑫ 実用フランス語技能検定試験／5級、4級及び3級合格 ⑬ スペイン語技能検定試験／6級及び5級合格
入学前に修得した他大学等の単位	単位を修得した大学等の成績証明書・履修案内・シラバス等を参照し、審査します。

①～⑤単位互換協定を結ぶ他大学における修得単位・学修

①放送大学（授業料は徴収しますが、入学料は徴収しません）、②福島大学・宇都宮大学、③茨城工業高等専門学校及び福島工業高等専門学校、④茨城県立医療大学、⑤茨城キリスト教大学との単位互換協定に基づき、各大学の科目（ただし、聴講可能な科目は限られます）を特別聴講学生として受講し、単位を修得した者は、本学の単位として認定を受けることができます。

申請時期・聴講可能科目・対象年次等は、各大学によって異なります。詳細は、農学部学務係に問い合わせてください。

⑥ 海外の大学における学修

本学では、海外の大学と学術・学生交流協定を締結しています。その協定によって、1年以内の期間でそれらの大学へ留学すること（「派遣留学」と言います）が可能です。協定校への留学に際しては、「派遣先大学の授業料等が免除される」、「修得した単位を本学の単位として認定を受ける」こともできます（一部の大学・授業科目を除きます）。ただし、渡航費や滞在費などは自己負担となります。

また、独立行政法人日本学生支援機構「留学交流支援制度（短期派遣）」により、毎年若干名が奨学金を受給して留学することも可能です。

派遣留学及び「留学交流支援制度（短期派遣）」奨学生については、例年、派遣開始の前年度11月頃に募集を行います。詳細は、農学部学務係に問い合わせてください。学術・学生交流協定を締結している海外の大学については、茨城大学HPをご覧ください。

学術・学生交流協定を締結している海外の大学へ留学した者で、単位の認定を希望する者は、帰国後、留学先の大学が発行した成績証明書及び大学のカリキュラム・授業内容が分かる資料（履修案内やシラバスなど）を添えて、農学部学務係に申し出てください。

なお、協定校以外への派遣留学で修得した単位は、認定対象とはなりません。

⑦ 実用英語技能検定

区 分	1 級		準 1 級	
	認定授業科目	認定単位数	認定授業科目	認定単位数
教養科目 (外国語科目)	総合英語 (レベル4)	2 単位	総合英語 (レベル3)	2 単位
	総合英語 (レベル5)	2 単位	総合英語 (レベル4)	2 単位

※既に修得済み又は履修中のレベルについては、単位認定されません。

⑧ ケンブリッジ大学英語検定

区 分	CPE、CAE		FCE	
	認定授業科目	認定単位数	認定授業科目	認定単位数
教養科目 (外国語科目)	総合英語 (レベル4)	2 単位	総合英語 (レベル3)	2 単位
	総合英語 (レベル5)	2 単位	総合英語 (レベル4)	2 単位

※既に修得済み又は履修中のレベルについては、単位認定されません。

⑨ TOEFL及びTOEIC【TOEFL (ITP) 及びTOEIC (IP) を含む】

区 分	TOEFL (iBT) / 84点以上 TOEFL (PBT) / 560点以上 TOEFL (CBT) / 221点以上 TOEIC 800点以上	TOEFL (iBT) / 61点～ 83点 TOEFL (PBT) / 500点～559点 TOEFL (CBT) / 173点～220点 TOEIC 700点～799点	TOEIC 600～699点			
	認定授業科目	認定単位数	認定授業科目	認定単位数	認定授業科目	認定単位数
教養科目 (外国語科目)	総合英語 (レベル4)	2 単位	総合英語 (レベル3)	2 単位	総合英語 (レベル3)	2 単位
	総合英語 (レベル5)	2 単位	総合英語 (レベル4)	2 単位		

※既に修得済み又は履修中のレベルについては、単位認定されません。

※なお上記の英語関連の検定試験の得点等は、総合英語の各レベルの基準を示すものではありません。

⑩ ドイツ語技能検定

区 分	3 級		4 級	
	認定授業科目	認定単位数	認定授業科目	認定単位数
教養科目 (外国語科目)	独語 I	2 単位	独語 I	2 単位
	独語 II	2 単位		

※既に修得済みの授業科目であっても、単位認定されます。

⑪ 中国語検定

区 分	3 級		4 級		準 4 級	
	認定授業科目	認定単位数	認定授業科目	認定単位数	認定授業科目	認定単位数
教養科目 (外国語科目)	中国語 I	2 単位	中国語 I	2 単位	中国語 I	2 単位
	中国語 II	2 単位				
	中国語 III	2 単位				

※既に修得済みの授業科目であっても、単位認定されます。

⑫ 実用フランス語技能検定

区 分	3 級		4 級		5 級	
	認定授業科目	認定単位数	認定授業科目	認定単位数	認定授業科目	認定単位数
教養科目 (外国語科目)	仏語Ⅰ	2単位	仏語Ⅰ	2単位	仏語Ⅰ	2単位
	仏語Ⅱ	2単位	仏語Ⅱ	2単位		
	仏語Ⅲ	2単位				

※既に修得済みの授業科目であっても、単位認定されます。

⑬ スペイン語技能検定

区 分	5 級		6 級	
	認定授業科目	認定単位数	認定授業科目	認定単位数
教養科目 (外国語科目)	スペイン語Ⅰ	2単位	スペイン語Ⅰ	2単位
	スペイン語Ⅱ	2単位		

※既に修得済みの授業科目であっても、単位認定されます。

9. 在学年限、修業年限、学籍の異動

1) 在学年限

①学生の在学年限は、8年となっています。この期間を超えて在学することはできません。

休学期間は在学年限に算入されません。※3)の①参照

停学期間は在学年限に算入されます。

②編入学生の在学年限は、4年となります。

2) 修業年限

①学生の修業年限は、4年となっています。

休学期間は修業年限に算入されません。

停学期間は修業年限に算入されます。

(ただし通算3月を越える場合は修業年限に算入されません。)

②編入学生の修業年限は、2年となります。

3) 学籍の異動

①休学

病気その他特別な理由により、引き続き2ヵ月以上修学することができない場合は、学長の許可を得て休学することができます(休学が認められる期間は2ヵ月以上1年以内の期間)。

なお、特別な理由により、1年を限度として休学期間を延長することができます。通算して4年を超えることはできません。休学期間は、修業年限及び在学年限に算入されません。このことは、例えば半年間休学をした場合には、その分、卒業時期が延びることを意味するので十分注意してください。

(休学手続)

農学部学務係で休学理由等を申し出た上で「休学願」等を受取り、学生担任等との相談を経て、農学部学務係へ提出してください(病気の場合は医師の診断書が必要)。

「休学願」の提出期限等は次のとおりです。

(例) (休学する期間)	(提出期限)	(授業料の取扱い)
4月1日～翌年3月31日	原則として2月末日	前・後学期分免除
10月1日～翌年3月31日	原則として8月末日	後学期分免除

(休学の延長)

特別な理由により、引き続き休学を希望する場合は、改めて休学の手続きを行うことになります。

②復学

休学期間の満了に伴い復学する時は、休学期間の満了前に「復学届」を提出して復学することができます。

休学期間中に休学事由が解消したことで復学する時は、「復学願」を提出して学長の許可を得て復学することができます。

(復学手続)

農学部学務係で「復学届(願)」を受け取り、学生担任等との相談を経て農学部学務係へ提出してください(病気回復による復学の場合は医師の診断書が必要)。「復学届(願)」の提出期限は、原則として復学する1か月前までとしますので、注意してください。

復学後は、所定の期日までに所定の授業料を納入してください。

③退学

病気その他やむを得ない事情により退学しようとする場合は、学長の許可を得て退学することができます。

(退学手続)

農学部学務係で退学理由等を申し出た上で「退学願」等を受取り、学生担任等との相談を経て農学部学務係へ提出してください(当該年度の授業料は納入してください。)

④除籍

次の事項に該当する学生は、農学部教育会議の議を経て除籍します。

所定の在学期間を超えた者

疾病その他の理由により成業の見込みがないと認められた者

授業料の納入を怠り、督促及び催告してもなお納入しない者

入学料を納入しない者

死亡又は行方不明の者

10. 履修上の注意

1) 休講

大学行事又は授業担当教員の止むを得ない事由によって授業が行えない場合には、休講とし、掲示で連絡します。

2) 補講

授業が休講となった場合又はその他の事由で、授業時間とは別に日時を定めて補講を行うことがあります。日時、教室などは掲示等で連絡します。

3) 授業の欠席

大学として公欠の制度はありません。

授業の出席時数が、その授業科目の総授業時間数の3分の2に達しない者は、定期試験の受験資格が与えられません。(農学部履修規則第4条3項)。3分の2の出席は、授業内容を理解するために必要と判断される最低限の時数であるため、真にやむを得ない事情による欠席も含まれます。

授業における欠席について疑義がある場合は、各自で授業担当教員へ直接問い合わせてください。

※真にやむを得ない事情とは、原則として疾病(法定伝染病、インフルエンザ等)、両親等の死亡、交通機関の運行停止(遅延)によるものとする。これ以外の事情がある場合は、担当教員の判断による。

※法定伝染病…麻疹(はしか)、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、風しん(三日はしか)、水痘(水ぼうそう)

4) 掲示

大学から学生への通知・連絡事項は、所定の掲示板に掲示します。掲示に注意しなかったため必要な手続きを怠り、修学に支障をきたすようなことが生じ不利益を被ることのないよう、毎日必ず掲示を見るようにしてください。友人が病気などの場合は、代わって見てあげるようにしてください(主な掲示の内容：履修上の注意、集中授業、休講、呼び出し、その

他)。

茨城大学教務情報 Web 連絡掲示板 (<http://gbbs.admb.ibaraki.ac.jp/index-student.php>)

※学外から休講情報や大学からのお知らせなどを参照することができます。

1.1. 成績評価に関する申立制度について

農学部が開講する専門科目について、以下の場合に限り成績評価に関する申し立てが出来ます。申立を行う場合は、学務係で手続を行ってください。

- ① 評価の誤記入や入力ミスなど、明らかに誤りであると思われる場合
- ② シラバスに記載の到達目標と成績評価方法から、明らかに評価に疑問がある場合

◆申立期間

①前学期開講の授業科目：10月の授業開始日から1週間以内。

②後学期及び通年開講授業科目：4月の授業開始日から1週間以内。

※9月卒業または3月卒業予定の場合は、それぞれの成績確認可能日から3日以内。

※成績確認可能日までに成績が報告されていない場合には、学務係に申し出て下さい。

◆成績報告期限及び成績確認可能日について

農学部の専任教員が担当する授業科目については、原則として次のとおり取り扱います。正式な期限は、必ず当該年度の学年暦および掲示にて確認してください。

①成績報告期限（当該日が土日祝祭日の場合は、翌日に繰り越します。）

【前学期】9月卒業予定者受講の授業科目：8月の第3又は第4週のいずれかの日

上記以外の授業科目：8月末日

【後学期】最上位学年：2月第3又は第4週のいずれかの日

最上位以外の学年：2月末日

②成績確認可能日（当該日が土日祝祭日の場合は、翌日に繰り越します。）

【前学期】9月卒業予定者受講の授業科目：成績期限の翌月曜日

上記以外の授業科目：9月10日

【後学期】最上位学年：成績期限の翌月曜日

最上位以外の学年：3月10日

12. 農学部において取得できる資格等

学 科	取得できる資格等
資源生物科学科	<p>食品衛生管理者及び食品衛生監視員 資源生物科学科を卒業した者に与えられる任用資格です。ただし、編入学生については食品衛生管理者・食品衛生監視員登録養成施設として認められている大学等から編入学した学生に限られます。 ※任用資格とは、特定の職業ないし職位に任用されるための資格のことです。該当任用資格を取得後、当該職務に任用・任命されて初めて効力を発揮します。</p>
地域環境科学科	<p>測量士補 地域環境工学カリキュラムを修めて卒業した者。卒業後実務経験1年以上で測量士の資格を取得できます。</p> <p>技術検定受検資格（1級・2級） 建設機械施行・土木施工管理又は建築施工管理等の技術検定試験の受検資格。地域環境工学カリキュラムを修めて卒業した後、所定の実務経験を有する者に与えられる。</p>
全学科	<p>高等学校教諭一種免許状（理科・農業） 所定の科目（教育実習を含む）を修得して卒業したものが取得できます。</p> <p>大型特殊自動車免許（農耕用に限りませ） フィールドサイエンス教育研究センターで開講する実習の一環として行われる実地検定に合格した者が取得できます。</p>

13. 早期卒業制度について

早期卒業制度は、一定の条件を満たす学生が3年半で卒業できる制度です。早期に大学を卒業して大学院に進学し資質を向上させたり、海外の大学院に留学し高い専門教育を受けるとともに国際感覚を養うことなどを目的としています。

◆対象者

資源生物科学科または地域環境科学科に所属する者

※平成26年度第1学年入学者から適用（転入学、編入学及び再入学は除く。）となります。

◆申請手続

早期卒業を希望する方は、2年次後期末に早期卒業申請書を学務係に提出してください。

◆要件

早期卒業の対象となる者は、以下の要件を満たさなければなりません。

2年時後期終了時

- 1 卒業に必要な修得単位数の合計が90単位以上であること。
- 2 通算のGPAが3.5以上であること。
- 3 履修した必修科目の成績評価が「C」以上であること。

3年次後期終了時

- 1 卒業に必要な単位をすべて修得していること（「卒業論文」、「プレゼンテーション技術論」、「ゼミナール（発展）」を除く）。
- 2 通算のGPAが3.5以上であること。

◆卒業認定

早期卒業の認定を受けるためには、以下の要件をすべて満たさなければなりません。

- (1) 学科の卒業要件を満たしていること。
- (2) 通算のGPAが3.5以上であること。
- (3) 卒業論文の成績評価が「A+」であること。

II 專門科目課程表

1. 水戸キャンパス開講の専門基礎科目(全カリキュラム共通)

水戸キャンパスで開講される専門基礎科目は次のとおりです。

農学部(阿見キャンパス)では開講されませんので、1年次のうちに必ず履修してください。

授業内容は「11. 専門基礎科目(水戸地区開講)シラバス」を参照してください。

水戸キャンパスで開講される1年次向け専門基礎科目(必修)

シラバスコード	授業科目	担当教員	単位	開講時期	曜日講時	教室	教職対応
A1001	農学入門	太田 寛行、他	2	前	金2	共通30	農業
A1002	農学基礎(食料)	久保山 勉、他	2	後	木5	共通30	農業
A1003	農学基礎(生命)	成澤 才彦、他	2	後	金2	共通30	農業
A1004	農学基礎(環境)	牧山 正男、他	2	後	木2	共通30	農業

2. 農学部(阿見キャンパス)開講の教養科目

農学部(阿見キャンパス)でも教養科目が複数開講されています。授業科目によっては、専門科目と時間割が重複している場合がありますので、その年度の「教養科目履修案内」を参照してください。

区分	授業科目	授業題目	単位	開講時期	曜日講時	対象学年
外国語科目	総合英語	プレレベル3	2	前	月1木1	2年
	総合英語	レベル3	2	前	月1木1	2年
	総合英語	学術用英語	2	前	月1木1	2年
	総合英語	レベル3	2	後	月1木1	2年
健康・スポーツ科目	身体活動	屋内ボールゲームⅡ	1	前	木3・4	2年
	身体活動	レクリエーションスポーツ	1	後	木3・4	2年
人文(分野別教養)	人間と心	心とストレス	2	前	集中	3年
社会(分野別教養)	社会と経済	農業生命産業論	2	後	水3	2年
自然(分野別基礎)	生物学	現代生物学入門	2	前	集中	2年
総合科目	就業力育成・ステップアップ系	生命倫理	2	前	金4	2年
	就業力育成・ステップアップ系	キャリア教育と大学教育・研究	2	後	木2	2年
	文明・技術系	家畜と人間	2	前	水3	2年

※上記は、平成26年度に阿見地区で開講される教養科目です。平成27年度以降は、当該年度の履修案内及び時間割等を参照してください。

3. 生物生産科学科 植物生産科学カリキュラム

以下の専門科目から84単位以上を修得することが卒業の条件です。ただし、必修科目59単位、選択必修科目10単位以上を修得する必要があります。

また、生物生産科学科では適正な修学の目安が、次のとおり設けられています。

- ・3年次前期終了時： 総修得単位数が80単位以上であることが望ましい。
- ・3年次後期終了時： 総修得単位数が93単位以上であることが望ましい。
加えて教養科目に関して、卒業するために必要な38単位を修得していることが望ましい。

必修科目（59単位）

★非常勤講師

シラバスコード	科目番号	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1001	100	農学入門	太田寛行、他	2	2								講義	農業	
A1002	100	農学基礎（食料）	久保山勉、他	2	2								講義	農業	
A1003	100	農学基礎（生命）	成澤才彦、他	2	2								講義	農業	
A1004	100	農学基礎（環境）	牧山正男、他	2	2								講義	農業	
A1005	100	農学実習	佐藤達雄、他	1			1						実習	農業	
A1101	100	栽培学	浅木直美	2			2						講義	農業	
A1102	100	畜産学	大久保武、他	2			2						講義	農業	
A1103	100	遺伝学	久保山勉	2			2						講義	理科	
A1201	100	基礎土壌学	太田、成澤、西澤	2			2						講義	理科	
A2101	200	生物学実験	生物生産科学科教員	1			1						実験	理科	
A2102	200	食用作物学	浅木直美	2			2						講義	農業	
A2103	200	作物機能形態学	新田洋司	2			2						講義	理科	
A2104	200	果樹学	井上栄一	2			2						講義	農業	
A2105	200	蔬菜学	東尾久雄	2			2						講義	農業	
A2106	200	植物病原微生物学	中島雅己	2			2						講義	農業	
A2107	200	応用動物学	後藤哲雄	2			2						講義	理科	
A2108	200	植物生産科学実験	関係教員	2			2						実験		
A2109	200	植物ウイルス学	阿久津克己	2				2					講義		
A2110	200	応用昆虫学	北嶋康樹	2				2					講義	理科	
A2111	200	植物育種学	渡部信義	2				2					講義	理科	
A2212	200	植物栄養・肥料学	西澤智康	2			2						講義		
A2401	200	生産技術学	佐藤達雄	2			2						講義		
A3101	300	作物学実験	浅木、新田	1				1					実験	農業	
A3102	300	園芸学実験	井上、未定	1				1					実験	農業	
A3103	300	植物病理学実験	中島（雅）、阿久津	1				1					実験	農業	
A3104	300	応用動物昆虫学実験	北嶋、後藤	1				1					実験	理科	
A3105	300	植物育種学実験	渡部、久保山	1				1					実験		
A3401	300	農場実習（耕種コース）	佐藤達雄	1					1				実習		
A4003	400	プレゼンテーション技術論	関係教員	1							1		演習		
-	-	ゼミナール（基礎）	関係教員	1					1				演習		
-	-	ゼミナール（発展）	関係教員	1						1			演習		
-	-	卒業論文	関係教員	8							8		実験		

選択必修科目(10単位以上)

シラバスコード	科目番号	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1202	100	基礎生化学	小島俊雄	2			2						講義	理科	
A1203	100	基礎有機化学	戸嶋浩明	2			2						講義	理科	
A1204	100	一般化学	鈴木義人	2			2						講義	理科	
A1303	100	統計学I	牧山正男	2			2						講義		
A1304	100	農環境政策学	西川邦夫	2			2						講義		
A1307	100	情報処理基礎	増富祐司	2				2					講義		
A1309	100	国際農業論	中川光弘	2				2					講義		
A2112	200	発生生物学	大久保、久保山	2				2					講義	理科	
A2201	200	細胞生物学	安西弘行	2			2						講義		

選択科目

シラバスコード	科目番号	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1205	100	基礎生態学	成澤、太田、鈴木	2			2						講義		
A1206	100	食の安全学	長南茂、他	2				2					講義		
A1301	100	水と土の力学入門	中石克也	2			2						講義	理科	
A1308	100	フードシステム学	立川雅司	2				2					講義		
A2113	200	生物生産科学特別講義	★未定	2				2	2				講義		累加可
A2117	200	飼料資源学	豊田淳	2				2					講義	理科	
A2203	200	分子生物学	朝山宗彦	2			2						講義		
A2207	200	食品化学	長南茂	2				2					講義		
A2302	200	農業経営学	西川邦夫	2			2						講義		
A2307	200	地域計画学	福與徳文	2				2					講義		
A2313	200	プログラミング基礎	未定	2				2					講義		
A2318	200	生物生産機械学	岡山毅	2					2				講義		
A3106	300	資源・工芸作物学	新田洋司	2					2				講義		
A3107	300	果樹学各論	井上栄一	2					2				講義		
A3108	300	蔬菜学各論	未定	2					2				講義		
A3109	300	飼料作物学	新田洋司	2						2			講義		
A3306	300	農地環境工学	牧山正男	2					2				講義		
A3316	300	農業史・環境史	伊丹一浩	2						2			講義		
A4001	400	インターンシップ	関係教員	1						1			実習		
A4002	400	国際インターンシップ	佐藤達雄	1						1			実習		
A4004	400	実用英会話	★未定	2							2		講義		

4. 生物生産科学科 動物科学カリキュラム

以下の専門科目から84単位以上を修得することが卒業の条件です。ただし、必修科目58単位、選択必修科目10単位以上を修得する必要があります。

また、生物生産科学科では適正な修学の目安が、次のとおり設けられています。

- ・3年次前期終了時： 総修得単位数が80単位以上であることが望ましい。
- ・3年次後期終了時： 総修得単位数が93単位以上であることが望ましい。

加えて教養科目に関して、卒業するために必要な38単位を修得していることが望ましい。

必修科目（58単位）

シラバス コード	科目 番号	授 業 科 目	担当教員（予定）	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1001	100	農学入門	太田寛行、他	2	2								講義	農業	
A1002	100	農学基礎（食料）	久保山勉、他	2	2								講義	農業	
A1003	100	農学基礎（生命）	成澤才彦、他	2	2								講義	農業	
A1004	100	農学基礎（環境）	牧山正男、他	2	2								講義	農業	
A1005	100	農学実習	佐藤達雄、他	1			1						実習	農業	
A1101	100	栽培学	浅木直美	2			2						講義	農業	
A1102	100	畜産学	大久保武、他	2			2						講義	農業	
A1103	100	遺伝学	久保山勉	2			2						講義	理科	
A2101	200	生物学実験	生物生産科学科教員	1			1						実験	理科	
A2114	200	動物機能形態学	中島弘美	2			2						講義	理科	
A2115	200	動物科学実験Ⅰ	小川、青柳、宮口	2			2						実験	理科	
A2116	200	動物行動学	安江健	2			2						講義	農業	
A2117	200	飼料資源学	豊田淳	2			2						講義	理科	
A2118	200	動物栄養学	青柳陽介	2			2						講義	農業	
A2119	200	動物科学実験Ⅱ	中島（弘）、豊田	2			2						実験		
A2120	200	動物育種学	大久保武	2				2					講義	農業	
A3110	300	動物生殖学	森英紀	2				2					講義	農業	
A3111	300	動物保健衛生学	上塚浩司	2				2					講義	農業	
A3112	300	畜産物安全学	小川恭喜	2				2					講義		
A3113	300	畜産物科学	宮口右二	2				2					講義	農業	
A3114	300	動物細胞工学	金澤卓弥	2				2					講義		
A3116	300	動物科学実験Ⅲ	安江、上塚、小針	2				2					実験		
A3117	300	動物科学実験Ⅳ	森、大久保、金澤	2				2					実験	農業	
A3402	300	動物福祉学	小針大助	2					2				講義		
A3403	300	農場実習（畜産コース）	小針大助、他	1				1					実習		
A4003	400	プレゼンテーション技術論	関係教員	1							1		演習		
-	-	ゼミナール（基礎）	関係教員	1					1				演習		
-	-	ゼミナール（発展）	関係教員	1						1			演習		
-	-	卒業論文	関係教員	8							8		実験		

選択必修科目(10単位以上)

シラバス コード	科目 番号	授 業 科 目	担当教員(予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1201	100	基礎土壌学	太田、成澤、西澤	2			2						講義	理科	
A1202	100	基礎生化学	小島俊雄	2			2						講義	理科	
A1204	100	一般化学	鈴木義人	2			2						講義	理科	
A1205	100	基礎生態学	成澤、太田、鈴木	2			2						講義		
A1302	100	環境保全学	黒田久雄	2			2						講義		
A1303	100	統計学I	牧山正男	2			2						講義		
A1304	100	農環境政策学	西川邦夫	2			2						講義		
A1309	100	国際農業論	中川光弘	2				2					講義		
A2112	200	発生生物学	大久保、久保山	2				2					講義	理科	
A3203	300	食品機能学	未定	2					2				講義	農業	

選択科目

シラバス コード	科目 番号	授 業 科 目	担当教員(予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1308	100	フードシステム学	立川雅司	2				2					講義		
A2102	200	食用作物学	浅木直美	2				2					講義	農業	
A2104	200	果樹学	井上栄一	2				2					講義	農業	
A2106	200	植物病原微生物学	中島雅己	2				2					講義	農業	
A2107	200	応用動物学	後藤哲雄	2				2					講義	理科	
A2110	200	応用昆虫学	北嶋康樹	2					2				講義	理科	
A2113	200	生物生産科学特別講義	★未定	2				2		2			講義		累加可
A2121	200	動物微生物学	未定	2				2					講義	理科	
A2122	200	動物生理学	中島弘美	2				2					講義		
A2123	200	畜産加工実習	宮口右二	1				1					実習		
A2201	200	細胞生物学	安西弘行	2				2					講義		
A2203	200	分子生物学	朝山宗彦	2				2					講義		
A2205	200	酵素化学	上妻由章	2				2					講義		
A2206	200	代謝生化学	未定	2				2					講義		
A2207	200	食品化学	長南茂	2				2					講義		
A2318	200	生物生産機械学	岡山毅	2					2				講義		
A2319	200	統計学Ⅱ	田附明夫	2				2					講義		
A2401	200	生産技術学	佐藤達雄	2				2					講義		
A3109	300	飼料作物学	新田洋司	2					2				講義		
A3115	300	動物生化学	青柳陽介	2					2				講義	理科	
A3118	300	校外牧場実習	金澤卓弥	1					1				実習		
A3213	300	栄養化学	白岩雅和	2					2				講義		
A3313	300	食品流通システム学	長澤淳	2					2				講義		
A4004	400	実用英会話	★未定	2					2				講義		
A4001	400	インターンシップ	関係教員	1					1				実習		
A4002	400	国際インターンシップ	佐藤達雄	1					1				実習		

5. 生物生産科学科 総合農学カリキュラム

以下の専門科目から84単位以上を修得することが卒業の条件です。ただし、必修科目29単位、選択必修科目8単位以上を修得する必要があります。

また、生物生産科学科では適正な修学の目安が、次のとおり設けられています。

- ・3年次前期終了時：総修得単位数が80単位以上であることが望ましい。
- ・3年次後期終了時：総修得単位数が93単位以上であることが望ましい。
加えて教養科目に関して、卒業するために必要な38単位を修得していることが望ましい。

必修科目（29単位）

シラバスコード	科目番号	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1001	100	農学入門	太田寛行、他	2	2								講義	農業	
A1002	100	農学基礎（食料）	久保山勉、他	2	2								講義	農業	
A1003	100	農学基礎（生命）	成澤才彦、他	2	2								講義	農業	
A1004	100	農学基礎（環境）	牧山正男、他	2	2								講義	農業	
A1005	100	農学実習	佐藤達雄、他	1			1						実習	農業	
A1101	100	栽培学	浅木直美	2			2						講義	農業	
A1102	100	畜産学	大久保武、他	2			2						講義	農業	
A1103	100	遺伝学	久保山勉	2			2						講義	理科	
A1201	100	基礎土壌学	太田、成澤、西澤	2			2						講義	理科	
A1205	100	基礎生態学	成澤、太田、鈴木	2			2						講義		
A1304	100	農環境政策学	西川邦夫	2			2						講義		
A1307	100	情報処理基礎	増富祐司	2				2					講義		
A1309	100	国際農業論	中川光弘	2				2					講義		
A2101	200	生物学実験	生物生産科学科教員	1			1						実験	理科	
A2108	200	植物生産科学実験		2				2					実験		
A2123	200	畜産加工実習	宮口右二	1				1					実習		

選択必修科目（植物・動物の科目区分からそれぞれ4単位ずつ、計8単位以上を選択して履修すること。）

シラバスコード	科目番号	科目区分	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
						前	後	前	後	前	後	前	後			
A3101	300	植物	作物学実験	浅木、新田	1					1				実験	農業	
A3102	300		園芸学実験	井上、未定	1					1				実験	農業	
A3103	300		植物病理学実験	中島（雅）、阿久津	1					1				実験	農業	
A3104	300		応用動物昆虫学実験	北嶋、後藤	1					1				実験	理科	
A3105	300		植物育種学実験	渡部、久保山	1					1				実験		
A3401	300		農場実習（耕種コース）	佐藤達雄	1						1			実習		
A2115	200		動物	動物科学実験Ⅰ	小川、青柳、宮口	2			2					実験	理科	
A2119	200	動物科学実験Ⅱ		中島（弘）、豊田	2				2				実験			
A3116	300	動物科学実験Ⅲ		安江、上塚、小針	2					2			実験			
A3117	300	動物科学実験Ⅳ		森、大久保、金澤	2					2			実験	農業		
A3403	300	農場実習（畜産コース）		小針大助、他	1						1			実習		

選択科目

シラバス コード	科目 番号	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1206	100	食の安全学	長南茂、他	2			2						講義		
A1301	100	水と土の力学入門	中石克也	2			2						講義	理科	
A1302	100	環境保全学	黒田久雄	2			2						講義		
A1303	100	統計学I	牧山正男	2			2						講義		
A1308	100	フードシステム学	立川雅司	2			2						講義		
A2102	200	食用作物学	浅木直美	2			2						講義	農業	
A2103	200	作物機能形態学	新田洋司	2			2						講義	理科	
A2104	200	果樹学	井上栄一	2			2						講義	農業	
A2105	200	蔬菜学	東尾久雄	2			2						講義	農業	
A2106	200	植物病原微生物学	中島雅己	2			2						講義	農業	
A2107	200	応用動物学	後藤哲雄	2			2						講義	理科	
A2109	200	植物ウイルス学	阿久津克己	2				2					講義		
A2110	200	応用昆虫学	北嶋康樹	2				2					講義	理科	
A2111	200	植物育種学	渡部信義	2				2					講義	理科	
A2112	200	発生生物学	大久保、久保山	2			2						講義	理科	
A2113	200	生物生産科学特別講義	★未定	2			2		2				講義		累加可
A2114	200	動物機能形態学	中島弘美	2			2						講義	理科	
A2116	200	動物行動学	安江健	2			2						講義	農業	
A2117	200	飼料資源学	豊田淳	2			2						講義	理科	
A2118	200	動物栄養学	青柳陽介	2			2						講義	農業	
A2120	200	動物育種学	大久保武	2				2					講義	農業	
A2121	200	動物微生物学	未定	2			2						講義	理科	
A2122	200	動物生理学	中島弘美	2			2						講義		
A2201	200	細胞生物学	安西弘行	2			2						講義		
A2203	200	分子生物学	朝山宗彦	2			2						講義		
A2205	200	酵素化学	上妻由章	2			2						講義		
A2206	200	代謝生化学	未定	2			2						講義		
A2207	200	食品化学	長南茂	2			2						講義		
A2302	200	農業経営学	西川邦夫	2			2						講義		
A2315	200	農業情報学	増富祐司	2				2					講義		
A2318	200	生物生産機械学	岡山毅	2				2					講義		
A2401	200	生産技術学	佐藤達雄	2			2						講義		
A2402	200	農業生産システム学	小松崎将一	2			2						講義		
A3109	300	飼料作物学	新田洋司	2					2				講義		
A3110	300	動物生殖学	森英紀	2				2					講義	農業	
A3112	300	畜産物安全学	小川恭喜	2				2					講義		
A3114	300	動物細胞工学	金澤卓弥	2				2					講義		
A3115	300	動物生化学	青柳陽介	2				2					講義	理科	
A3118	300	校外牧場実習	金澤卓弥	1				1					実習		
A3213	300	栄養化学	白岩雅和	2				2					講義		
A3303	300	環境経済学	内田晋	2				2					講義		
A3304	300	農業食料経済学	長澤淳	2				2					講義		
A3305	300	農業食料社会学	立川雅司	2				2					講義		
A3313	300	食品流通システム学	長澤淳	2					2				講義		
A3321	300	農村計画学	小林久	2					2				講義		
A3402	300	動物福祉学	小針大助	2					2				講義		
A4001	400	インターンシップ	関係教員	1					1				実習		
A4002	400	国際インターンシップ	佐藤達雄	1					1				実習		
A4003	400	プレゼンテーション技術論	関係教員	1						1			演習		
A4004	400	実用英会話	★未定	2						2			講義		

6. 資源生物科学科 資源生物科学カリキュラム

以下の専門科目から80単位以上を修得することが卒業の条件です。ただし、必修科目64単位、選択必修科目12単位以上を修得する必要があります。

また、資源生物科学科では、3年次後期からゼミナール（基礎）、4年次前期からゼミナール（発展）、及び卒業論文を履修するための条件が、次のとおり設けられています。

- ・ゼミナール（基礎）：総修得単位数が80単位以上であること。
- ・ゼミナール（発展）、卒業論文：ゼミナール（基礎）を修得済みであること。総修得単位数が100単位（内必修科目45単位以上）以上であること。教養科目は卒業に必要な38単位を修得していることが望ましい。

必修科目（64単位）

★非常勤講師

シラバスコード	科目番号	授 業 科 目	担当教員（予定）	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備 考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1001	100	農学入門	太田寛行、他	2	2								講義	農業	
A1002	100	農学基礎（食料）	久保山勉、他	2	2								講義	農業	
A1003	100	農学基礎（生命）	成澤才彦、他	2	2								講義	農業	
A1004	100	農学基礎（環境）	牧山正男、他	2	2								講義	農業	
A1005	100	農学実習	佐藤達雄、他	1			1						実習	農業	
A1201	100	基礎土壌学	太田、成澤、西澤	2			2						講義	理科	
A1202	100	基礎生化学	小島俊雄	2			2						講義	理科	
A1203	100	基礎有機化学	戸嶋浩明	2			2						講義	理科	
A1204	100	一般化学	鈴木義人	2			2						講義	理科	
A2201	200	細胞生物学	安西弘行	2			2						講義	農業	
A2202	200	基礎微生物学	久留主、太田	2			2						講義	農業	
A2203	200	分子生物学	朝山宗彦	2			2						講義	理科	
A2204	200	続・一般化学	長谷川守文	2				2					講義	理科	
A2205	200	酵素化学	上妻由章	2				2					講義	農業	
A2206	200	代謝生化学	未定	2				2					講義	農業	
A2207	200	食品化学	長南茂	2				2					講義	理科	
A2208	200	微生物生態学	成澤才彦	2				2					講義	理科	
A2209	200	無機化学実験	鈴木、西澤	1				1					実験	理科	
A2210	200	食品化学実験	長南、上妻	1				1					実験	農業	
A2211	200	生化学実験	米倉、白岩	1				1					実験	理科	
A3201	300	有機化学実験	戸嶋、長谷川	1						1			実験	理科	
A3203	300	食品機能学	未定	2					2				講義	農業	
A3204	300	生物有機化学	鈴木義人	2					2				講義	理科	
A3205	300	公衆衛生学	★未定	2					2				講義		
A3206	300	食品製造化学	未定/★未定	2					2				講義	農業	
A3207	300	食品微生物学	太田、久留主、★未定	2						2			講義	農業	
A3208	300	食品衛生学	★未定	2						2			講義	農業	
A3209	300	酵素学実験	小島俊雄	1					1				実験	理科	
A3210	300	細胞生物学実験	安西、古谷	1					1				実験	農業	
A3211	300	微生物学実験	太田、久留主、成澤、西原	2					2				実験	農業	
A3212	300	分子生物学実験	朝山宗彦	1						1			実験	理科	
-	-	卒業論文	関係教員	8							8		実験		
-	-	ゼミナール（基礎）	関係教員	1						1			演習		
-	-	ゼミナール（発展）	関係教員	1							1		演習		

選択必修科目（12単位以上）

シラバスコード	科目番号	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1205	100	基礎生態学	成澤、太田、鈴木	2			2						講義	農業	
A1206	100	食の安全学	長南茂、他	2				2					講義	農業	
A2112	200	発生生物学	大久保、久保山	2				2					講義	理科	
A2212	200	植物栄養・肥料学	西澤智康	2				2					講義	理科	
A2213	200	天然物有機化学	戸嶋浩明	2				2					講義	農業	
A3113	300	畜産物科学	宮口右二	2					2				講義		
A3202	300	地圏環境化学	太田寛行	2					2				講義	農業	
A3213	300	栄養化学	白岩雅和	2					2				講義	農業	
A3214	300	遺伝子制御学	朝山宗彦	2					2				講義	農業	
A3215	300	応用微生物学	西原宏史	2					2				講義	農業	

選択科目

シラバスコード	科目番号	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1101	100	栽培学	浅木直美	2			2						講義		
A1102	100	畜産学	大久保武、他	2			2						講義		
A1103	100	遺伝学	久保山勉	2			2						講義		
A1301	100	水と土の力学入門	中石克也	2			2						講義	理科	
A1302	100	環境保全学	黒田久雄	2			2						講義		
A1303	100	統計学I	牧山正男	2			2						講義		
A1304	100	農環境政策学	西川邦夫	2			2						講義		
A1305	100	微積分学	前田滋哉	2			2						講義		
A1306	100	線形代数学	木下嗣基	2			2						講義		
A1307	100	情報処理基礎	増富祐司	2				2					講義		
A1308	100	フードシステム学	立川雅司	2				2					講義		
A1309	100	国際農業論	中川光弘	2				2					講義		
A1310	100	力学	吉田貢士	2				2					講義	理科	
A2102	200	食用作物学	浅木直美	2				2					講義		
A2106	200	植物病原微生物学	中島雅己	2				2					講義		
A2107	200	応用動物学	後藤哲雄	2				2					講義		
A2110	200	応用昆虫学	北嶋康樹	2					2				講義		
A2111	200	植物育種学	渡部信義	2					2				講義	理科	
A2120	200	動物育種学	大久保武	2					2				講義		
A2122	200	動物生理学	中島弘美	2				2					講義		
A2310	200	土壌物理学	中石克也	2				2					講義	理科	
A2319	200	統計学II	田附明夫	2				2					講義		
A3110	300	動物生殖学	森英紀	2					2				講義		
A3313	300	食品流通システム学	長澤淳	2						2			講義		
A4001	400	インターンシップ	関係教員	1					1				実習		
A4002	400	国際インターンシップ	佐藤達雄	1					1				実習		
A4003	400	プレゼンテーション技術論	関係教員	1							1		演習		
A4004	400	実用英会話	★未定	2						2			講義		

7. 地域環境科学科 地域環境工学カリキュラム

以下の専門科目から76単位以上を修得することが卒業の条件です。ただし、必修科目62単位を修得する必要があります。

また、地域環境科学科では、3年次後期以降にゼミナール（基礎）、4年次前期以降にゼミナール（発展）、及び卒業論文を履修するための条件が、次のとおり設けられています。

- ・ゼミナール（基礎）： 総修得単位数が原則として82単位以上であること。
- ・ゼミナール（発展）、卒業論文： ゼミナール（基礎）を修得済みであること。総修得単位数が96単位以上であること。教養科目は卒業に必要な38単位を修得していることが望ましい。

必修科目（62単位）

★非常勤講師

シラバス コード	科目 番号	授 業 科 目	担当教員（予定）	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1001	100	農学入門	太田寛行、他	2	2								講義	農業	
A1002	100	農学基礎（食料）	久保山勉、他	2	2								講義	農業	
A1003	100	農学基礎（生命）	成澤才彦、他	2	2								講義	農業	
A1004	100	農学基礎（環境）	牧山正男、他	2	2								講義	農業	
A1005	100	農学実習	佐藤達雄、他	1			1						実習	農業	
A1301	100	水と土の力学入門	中石克也	2			2						講義	理科	
A1303	100	統計学I	牧山正男	2			2						講義		
A1305	100	微積分学	前田滋哉	2			2						講義		
A1306	100	線形代数学	木下嗣基	2			2						講義		
A1307	100	情報処理基礎	増富祐司	2				2					講義		
A1310	100	力学	吉田貢士	2				2					講義	理科	
A2306	200	測量実習	西脇淳子	2			2						実習		
A2309	200	水文学	吉田貢士	2				2					講義	理科	
A2310	200	土壌物理学	中石克也	2				2					講義	理科	
A2311	200	水理学	未定	2				2					講義	理科	
A2312	200	応用力学I	木下嗣基	2				2					講義	理科	
A2314	200	測量学	牧山正男	2				2					講義	理科	
A2318	200	生物生産機械学	岡山毅	2					2				講義	農業	
A3302	300	土壌物理実験	西脇淳子	1					1				実験	理科	
A3306	300	農地環境工学	牧山正男	2					2				講義	農業	
A3307	300	農業水利学	黒田久雄	2					2				講義	農業	
A3311	300	応用力学II	中石克也	2					2				講義	理科	
A3317	300	地理情報学	木下嗣基	2					2				講義	理科	
A3318	300	水理実験	前田滋哉	1					1				実験	理科	
A3319	300	水理学演習	吉田貢士	2					2				演習	理科	
A3321	300	農村計画学	小林久	2						2			講義		
A3322	300	土質工学	未定	2						2			講義	理科	
A4003	400	プレゼンテーション技術論	関係教員	1							1		演習		
-	-	ゼミナール（基礎）	関係教員	1						1			演習		
-	-	ゼミナール（発展）	関係教員	1							1		演習		
-	-	卒業論文	関係教員	8								8	実験		

選択科目

シラバス コード	科目 番号	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1101	100	栽培学	浅木直美	2			2						講義	農業	
A1201	100	基礎土壌学	太田、成澤、西澤	2			2						講義	理科	
A1302	100	環境保全学	黒田久雄	2			2						講義	農業	
A1304	100	農環境政策学	西川邦夫	2			2						講義		
A1308	100	フードシステム学	立川雅司	2				2					講義	農業	
A1309	100	国際農業論	中川光弘	2				2					講義	農業	
A2307	200	地域計画学	福與徳文	2				2					講義		
A2308	200	農業気象学	田附明夫	2					2				講義	農業	
A2313	200	プログラミング基礎	未定	2				2					講義		
A2315	200	農業情報学	増富祐司	2					2				講義	農業	
A2316	200	環境調節工学	岡山毅	2					2				講義	農業	
A2317	200	熱力学	中石克也	1					1				講義	理科	
A2319	200	統計学Ⅱ	田附明夫	2					2				講義		
A2402	200	農業生産システム学	小松崎将一	2					2				講義	農業	
A3301	300	農業生産システム学実験実習	岡山毅	1					1				実験	理科	
A3315	300	プログラミング演習	長澤淳	2						2			演習		
A3320	300	流域管理論	前田滋哉	1						1			講義		
A3323	300	農業土木施設学	未定	1						1			講義		
A3325	300	地域環境科学特別講義Ⅰ	未定	2				2	2	2			講義		累加可
A3326	300	地域環境科学特別講義Ⅱ	未定	1				1	1	1			講義		累加可
A3327	300	地域環境科学特別講義Ⅲ	未定	1				1	1	1			講義		累加可
A3328	300	地域環境科学特別演習	未定	1				1	1	1			演習		
A4001	400	インターンシップ	関係教員	1					1				実習		
A4002	400	国際インターンシップ	佐藤達雄	1					1				実習		
A4004	400	実用英会話	★未定	2						2			講義		

8. 地域環境科学科 環境食料政策学カリキュラム

以下の専門科目から76単位以上を修得することが卒業の条件です。ただし、必修科目44単位、選択必修科目①12単位以上、選択必修科目②6単位以上を修得する必要があります。

また、地域環境科学科では、3年次後期以降にゼミナール（基礎）、4年次前期以降にゼミナール（発展）、及び卒業論文を履修するための条件が、次のとおり設けられています。

- ・ゼミナール（基礎）： 総修得単位数が原則として82単位以上であること。
- ・ゼミナール（発展）、卒業論文： ゼミナール（基礎）を修得済みであること。総修得単位数が96単位以上であること。教養科目は卒業に必要な38単位を修得していることが望ましい。

必修科目（44単位）

★非常勤講師

シラバスコード	科目番号	授 業 科 目	担当教員（予定）	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備 考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1001	100	農学入門	太田寛行、他	2	2								講義	農業	
A1002	100	農学基礎（食料）	久保山勉、他	2	2								講義	農業	
A1003	100	農学基礎（生命）	成澤才彦、他	2	2								講義	農業	
A1004	100	農学基礎（環境）	牧山正男、他	2	2								講義	農業	
A1005	100	農学実習	佐藤達雄、他	1			1						実習	農業	
A1304	100	農環境政策学	西川邦夫	2			2						講義		
A1308	100	フードシステム学	立川雅司	2			2						講義	農業	
A1309	100	国際農業論	中川光弘	2			2						講義	農業	
A2301	200	共生社会システム論	中川光弘	2			2						講義		
A2302	200	農業経営学	西川邦夫	2			2						講義	農業	
A2303	200	社会学	立川雅司	2			2						講義		
A2304	200	政治経済学	伊丹一浩	2			2						講義		
A2305	200	近代経済学	内田晋	2			2						講義		
A2307	200	地域計画学	福與徳文	2			2						講義		
A3308	300	地域政策学	福與徳文	2				2					講義	農業	
A3309	300	地域環境ガバナンス論	伊丹一浩	2				2					講義		
A3310	300	環境マネジメント論	小林久	2				2					講義		
A4003	400	プレゼンテーション技術論	関係教員	1							1		演習		
-	-	ゼミナール（基礎）	関係教員	1					1				演習		
-	-	ゼミナール（発展）	関係教員	1						1			演習		
-	-	卒業論文	関係教員	8							8		実験		

選択必修科目①（12単位以上）

シラバスコード	科目番号	授 業 科 目	担当教員（予定）	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備 考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A3303	300	環境経済学	内田晋	2					2				講義		
A3304	300	農業食料経済学	長澤淳	2					2				講義	農業	
A3305	300	農業食料社会学	立川雅司	2					2				講義	農業	
A3312	300	計量経済学	中川光弘	2					2				講義		
A3313	300	食品流通システム学	長澤淳	2						2			講義		
A3314	300	比較農政学	西川邦夫	2					2				講義	農業	
A3316	300	農業史・環境史	伊丹一浩	2						2			講義	農業	
A3321	300	農村計画学	小林久	2						2			講義		
A3324	300	地域社会調査実習	各教員	1					1				実習		

選択必修科目②（6単位以上）

シラバスコード	科目番号	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1101	100	栽培学	浅木直美	2			2						講義	農業	
A1102	100	畜産学	大久保武、他	2			2						講義	農業	
A1201	100	基礎土壌学	太田、成澤、西澤	2			2						講義	理科	
A1302	100	環境保全学	黒田久雄	2			2						講義	農業	
A1303	100	統計学I	牧山正男	2			2						講義		
A1307	100	情報処理基礎	増富祐司	2				2					講義		
A2313	200	プログラミング基礎	未定	2				2					講義		
A2315	200	農業情報学	増富祐司	2					2				講義	農業	

選択科目

シラバスコード	科目番号	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1103	100	遺伝学	久保山勉	2			2						講義		
A1202	100	基礎生化学	小島俊雄	2			2						講義	理科	
A1204	100	一般化学	鈴木義人	2			2						講義	理科	
A1205	100	基礎生態学	成澤、太田、鈴木	2			2						講義		
A1301	100	水と土の力学入門	中石克也	2			2						講義	理科	
A1305	100	微積分学	前田滋哉	2			2						講義		
A1306	100	線形代数学	木下嗣基	2			2						講義		
A1310	100	力学	吉田貢士	2				2					講義	理科	
A2102	200	食用作物学	浅木直美	2				2					講義		
A2103	200	作物機能形態学	新田洋司	2				2					講義	理科	
A2104	200	果樹学	井上栄一	2				2					講義		
A2105	200	蔬菜学	東尾久雄	2				2					講義		
A2106	200	植物病原微生物学	中島雅己	2				2					講義		
A2107	200	応用動物学	後藤哲雄	2				2					講義	理科	
A2109	200	植物ウイルス学	阿久津克己	2					2				講義		
A2110	200	応用昆虫学	北嶋康樹	2					2				講義		
A2111	200	植物育種学	渡部信義	2					2				講義	理科	
A2116	200	動物行動学	安江健	2				2					講義		
A2118	200	動物栄養学	青柳陽介	2				2					講義		
A2201	200	細胞生物学	安西弘行	2				2					講義		
A2203	200	分子生物学	朝山宗彦	2				2					講義		
A2204	200	統・一般化学	長谷川守文	2				2					講義	理科	
A2207	200	食品化学	長南茂	2				2					講義		
A2208	200	微生物生態学	成澤才彦	2				2					講義		
A2212	200	植物栄養・肥料学	西澤智康	2				2					講義		
A2309	200	水文学	吉田貢士	2				2					講義	理科	
A2310	200	土壌物理学	中石克也	2				2					講義	理科	
A2316	200	環境調節工学	岡山毅	2					2				講義	農業	
A2319	200	統計学Ⅱ	田附明夫	2				2					講義		
A2402	200	農業生産システム学	小松崎将一	2				2					講義	農業	
A3306	300	農地環境工学	牧山正男	2					2				講義	農業	
A3307	300	農業水利学	黒田久雄	2					2				講義	農業	
A3317	300	地理情報学	木下嗣基	2					2				講義	理科	
A3320	300	流域管理論	前田滋哉	1						1			講義		
A3325	300	地域環境科学特別講義Ⅰ		2				2		2			講義		累加可
A3326	300	地域環境科学特別講義Ⅱ		1				1		1			講義		累加可
A3327	300	地域環境科学特別講義Ⅲ		1				1		1			講義		累加可
A3328	300	地域環境科学特別演習		1				1		1			演習		
A3404	300	農業安全管理実習	小松崎、小針	2					2				実習		
A4001	400	インターンシップ	関係教員	1						1			実習		
A4002	400	国際インターンシップ	佐藤達雄	1						1			実習		
A4004	400	実用英会話	★未定	2						2			講義		

9. 地域環境科学科 地域環境保全学カリキュラム

以下の専門科目から76単位以上を修得することが卒業の条件です。ただし、必修科目47単位、選択必修科目①12単位以上、選択必修科目②4単位以上、選択必修科目③4単位以上を修得する必要があります。

また、地域環境科学科では、3年次後期以降にゼミナール（基礎）、4年次前期以降にゼミナール（発展）、及び卒業論文を履修するための条件が、次のとおり設けられています。

- ・ゼミナール（基礎）： 総修得単位数が原則として82単位以上であること。
 - ・ゼミナール（発展）、卒業論文： ゼミナール（基礎）を修得済みであること。総修得単位数が96単位以上であること。
- 教養科目は卒業に必要な38単位を修得していることが望ましい。

必修科目（47単位）

★非常勤講師

シラバスコード	科目番号	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1001	100	農学入門	太田寛行、他	2	2								講義	農業	
A1002	100	農学基礎（食料）	久保山勉、他	2	2								講義	農業	
A1003	100	農学基礎（生命）	成澤才彦、他	2	2								講義	農業	
A1004	100	農学基礎（環境）	牧山正男、他	2	2								講義	農業	
A1005	100	農学実習	佐藤達雄、他	1			1						実習	農業	
A1301	100	水と土の力学入門	中石克也	2			2						講義	理科	
A1302	100	環境保全学	黒田久雄	2			2						講義	農業	
A1303	100	統計学I	牧山正男	2			2						講義		
A1304	100	農環境政策学	西川邦夫	2			2						講義		
A1307	100	情報処理基礎	増富祐司	2				2					講義		
A1308	100	フードシステム学	立川雅司	2				2					講義	農業	
A2301	200	共生社会システム論	中川光弘	2			2						講義		
A2302	200	農業経営学	西川邦夫	2			2						講義	農業	
A2307	200	地域計画学	福與徳文	2				2					講義		
A2308	200	農業気象学	田附明夫	2					2				講義	農業	
A2309	200	水文学	吉田貢士	2				2					講義	理科	
A2402	200	農業生産システム学	小松崎将一	2				2					講義	農業	
A3301	300	農業生産システム学実験実習	岡山毅	1				1					実験	理科	
A3321	300	農村計画学	小林久	2						2			講義		
A4003	400	プレゼンテーション技術論	関係教員	1							1		演習		
-	-	ゼミナール（基礎）	関係教員	1						1			演習		
-	-	ゼミナール（発展）	関係教員	1							1		演習		
-	-	卒業論文	関係教員	8								8	実験		

選択必修科目①（工学、政策のいずれかの科目区分から12単位以上を履修すること）

シラバスコード	科目番号	科目区分	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
						前	後	前	後	前	後	前	後			
A2310	200	工学	土壌物理学	中石克也	2				2					講義	理科	
A2315	200		農業情報学	増富祐司	2					2				講義	農業	
A2316	200		環境調節工学	岡山毅	2					2				講義	農業	
A2319	200		統計学II	田附明夫	2					2				講義		
A3302	300		土壌物理実験	西脇淳子	1						1			実験	理科	
A3306	300		農地環境工学	牧山正男	2						2			講義	農業	
A3307	300		農業水文学	黒田久雄	2						2			講義	農業	
A3320	300		流域管理論	前田滋哉	1							1		講義		
A1309	100		国際農業論	中川光弘	2						2			講義	農業	
A2304	200	政策	近代経済学	内田晋	2					2			講義			
A3303	300		環境経済学	内田晋	2						2			講義		
A3304	300		農業食料経済学	長澤淳	2						2			講義	農業	
A3308	300		地域政策学	福與徳文	2						2			講義	農業	
A3309	300		地域環境ガバナンス論	伊丹一浩	2						2			講義		
A3310	300		環境マネジメント論	小林久	2						2			講義		

選択必修科目②（4単位以上）

シラバスコード	科目番号	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1101	100	栽培学	浅木直美	2			2						講義	農業	
A1102	100	畜産学	大久保武、他	2			2						講義	農業	
A1201	100	基礎土壌学	太田、成澤、西澤	2			2						講義	理科	

選択必修科目③（4単位以上）

シラバスコード	科目番号	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1305	100	微積分学	前田滋哉	2			2						講義		
A1306	100	線形代数学	木下嗣基	2			2						講義		
A1310	100	力学	吉田貢士	2				2					講義	理科	

選択科目

シラバスコード	科目番号	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
A1201	100	基礎生態学	成澤、太田、鈴木	2			2						講義		
A1204	100	一般化学	鈴木義人	2			2						講義	理科	
A2303	200	社会学	立川雅司	2				2					講義		
A2304	200	政治経済学	伊丹一浩	2				2					講義		
A2311	200	水理学	未定	2				2					講義	理科	
A2312	200	応用力学I	木下嗣基	2				2					講義	理科	
A2313	200	プログラミング基礎	未定	2				2					講義		
A2317	200	熱力学	中石克也	1					1				講義	理科	
A2318	200	生物生産機械学	岡山毅	2					2				講義	農業	
A3305	300	農業食料社会学	立川雅司	2					2				講義	農業	
A3311	300	応用力学II	中石克也	2					2				講義	理科	
A3312	300	計量経済学	中川光弘	2					2				講義		
A3313	300	食品流通システム学	長澤淳	2						2			講義		
A3314	300	比較農政学	西川邦夫	2					2				講義	農業	
A3315	300	プログラミング演習	長澤淳	2					2				演習		
A3316	300	農業史・環境史	伊丹一浩	2						2			講義	農業	
A3317	300	地理情報学	木下嗣基	2					2				講義	理科	
A3322	300	土質工学	未定	2						2			講義	理科	
A3323	300	農業土木施設学	未定	1						1			講義		
A3325	300	地域環境科学特別講義I		2				2	2	2			講義		累加可
A3326	300	地域環境科学特別講義II		1				1	1	1			講義		累加可
A3327	300	地域環境科学特別講義III		1				1	1	1			講義		累加可
A3328	300	地域環境科学特別演習		1				1	1	1			演習		
A3404	300	農業安全管理実習	小松崎、小針	2					2				実習		
A4001	400	インターンシップ	関係教員	1						1			実習		
A4002	400	国際インターンシップ	佐藤達雄	1						1			実習		
A4004	400	実用英会話	★未定	2							2		講義		

10. 教育職員免許状取得のための履修案内
(平成26年度入学生用)

26年度入学生 14A

教育職員免許状取得のための履修案内

(平成26年度入学者用)

茨城大学農学部

I. 茨城大学農学部で取得可能な免許状の種類

本学部では、申請のうえ必要単位数を修得して卒業すると高等学校教諭一種免許状(理科)及び(農業)を取得できます。

また、学部卒業時に高等学校教諭一種免許状(農業)を取得して本学大学院農学研究科に進学した者は、必要単位数を修得することにより、大学院修了時に高等学校教諭専修免許状(農業)を取得できます。

課程の名称、免許状の種類

課程の名称		免許状の種類	免許教科
農 学 部	生物生産科学科	高等学校教諭一種免許状	理 科
		高等学校教諭一種免許状	農 業
	資源生物科学科	高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	理 科 農 業
部	地域環境科学科	高等学校教諭一種免許状	理 科
		高等学校教諭一種免許状	農 業

II. 卒業後の免許状取得について

卒業時に免許状取得を希望しなかった者、又は単位不足で取得できなかった者が、卒業後に免許状の取得を希望する場合は、当該科目の課程認定を受けている大学の科目等履修生などで不足する単位を修得し、都道府県の教育委員会に個人申請を行うことで免許状を取得することができます(本学にも科目等履修生の制度はあります)。その場合は、科目等履修生として履修する前年度の11月末までに必ず学務係へ連絡してください。

ただし、この方法による場合で本学入学後に免許法が改正されている場合は、新法の適用になるため、履修内容に注意が必要です。

III. 免許状取得に必要な単位数

1. 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(本学教養科目)

法で定める科目	単位	本学で開講する科目	備 考
日本国憲法	2	社会の分野「日本国憲法」	必ず修得すること。
体育	2	「身体活動」	
外国語コミュニケーション	2	「総合英語」	
情報機器の操作	2	「情報処理概論」	

2. 教職に関する科目

教職に関する科目のほとんどは、水戸地区で夏季休業期間に毎年開講されます（一部阿見地区での開講科目あり）。これらの科目は卒業単位に含めることができません。教育実習参加の必要条件になっている科目もありますので注意してください。

科目名	単位	履修年次	開講場所・開講時期等	教育実習要件科目
中等教育教師論	2	1	水戸（毎年：集中）	必要
教育の本質と理念	2	1	水戸（毎年：前期集中）	必要
人間教育の心理学	2	※	水戸（毎年：前期集中）	必要
教育の制度と経営	2	※	水戸（毎年：前期集中）	必要
学校教育課程論	2	※	水戸（毎年：前期集中）	必要
教育の方法と技術	2	※	水戸（毎年：前期集中）	
生活指導の方法	2	※	水戸（毎年：前期集中）	
学校教育相談	2	※	水戸（毎年：前期集中）	
取得しようとする教科に該当する科目を履修 (理科の場合) 中等理科教育法Ⅳ (農業の場合) 農業科教育法Ⅰ・Ⅱ Ⅰ・Ⅱのどちらか一方を履修すること。	2	※	水戸（毎年：前期集中）	
	2	2	阿見（毎年：前期集中）	
教育実習 ●2年次4月に申し込みが必要	3	4	帰省実習（5月～10月）	
教職実践演習（中・高）※※	2	4	水戸（毎年：集中）	

※は、2年次以降に開講予定です。詳細な履修年次や開講時期等は、掲示にて周知しますので、当該年度の掲示を必ず見るよう留意してください。

※※は、受講するために2年次から毎年、「学びのあしあと（履修カルテ）」の提出、および教職担当教員との面談が必要になります（2年次4月のガイダンス時に説明します）。

3. 教科に関する科目

各学科の免許種類で指定された科目から必要単位数を修得してください。

各学科の「教科に関する科目一覧」は次々ページ以降を参照してください。特に次の科目については開講時期について注意してください。

科目名	単位	履修年次	開講場所・開講時期等	奇数年度	偶数年度
化学実験 ※卒業要件外科目	1	2	阿見（毎年：前期集中）	○	○
キャリア開発論	2	2	阿見（隔年：前期集中）	○	×

IV. 教育実習について

1. 教育実習に係る日程概略

教育実習を希望する学生は2年次4月のガイダンスに必ず出席して所定の期日までに申し込んでください。それ以降の申し込みは受け付けません。下表のオリエンテーション等の詳細な日程や場所、注意事項等は、その都度掲示で周知しますので掲示に注意してください。

2年次	4月	ガイダンス及び教育実習申し込み	(阿見キャンパス)
3年次	4月中旬	オリエンテーションⅠ	(阿見キャンパス)
	8月～9月	教育実習体験報告会	(阿見キャンパス)
	10月下旬	オリエンテーションⅡ、Ⅲ	(水戸キャンパス)
	11月中旬	教科別オリエンテーション	(水戸キャンパス)
4年次	4月中旬	オリエンテーションⅣ	(阿見キャンパス)
	5～10月	教育実習（2週間）	(出身校等)
	8月～9月	教育実習体験報告会	(阿見キャンパス)

2. 教育実習に関する注意事項等

(1) 教育実習の実習校

原則として教育実習希望者が自分で出身中学校又は高等学校に依頼します（帰省実習）。
具体的な手続き等は3年次4月のオリエンテーションⅠで説明します。なお、大学は実習校の幹
旋等を基本的に行いません。

(2) 教育実習時に必要な条件

①次の単位を4年次4月までに修得していることが条件です。

[教職に関する科目]

中等教育教師論、教育の本質と理念、 人間教育の心理学、教育の制度と経営 学校教育課程論	修得済であること
教科教育法（理科・農業）、教育の方法と技術、 生活指導の方法、学校教育相談、教職実践演習	履修予定でもよいが、卒業 までに修得すること

[教科に関する科目]

38～40ページ記載の各学科免許教科科目の所要単位数の3分の2以上（26単位以上）を
修得済であること。

②教育実習希望者は、必ず事前事後指導として前ページ記載のオリエンテーション等（1単位分）
に全て出席しなければなりません。なお、このオリエンテーション等にひとつでも欠席又は遅
刻した者は、教育実習に参加できなくなります。

[オリエンテーションの主な内容]

教育実習の心得、教育実習の目標・内容・観察、漢字かな遣いの指導、
教育実習の特色と教科指導法、教育実習に際しての健康管理、その他。

[教育実習体験報告会の内容]

教育実習終了者（4年生）が教育実習の成果等について発表する（事後指導）。教育実習予定
者（3年生）は発表を聴講して積極的に質問をするとともに、発表会終了後の情報交換会に必
ず参加し、教育実習について理解を深める（事前指導）。

(3) 教育実習の期間及び単位数

①教育実習期間：4年次の5月から10月までの期間中の2週間（2単位分）です。

②単位数：実習を良好な成績で修了し、成績評価が合格の者には、3単位（オリエンテーション
1単位・実習2単位）が与えられます。但し、卒業単位には含まれません。

(4) 実習校への謝金

教育実習謝金は、本学部としては学生一人当たり10,000円（学生及び大学負担）を予定し
ていますが、これを超える経費については、学生が負担します。

なお、「教育実習履修簿」「評価表」「出勤簿」等については、学生が本学所定のものを持参し
ます（4年次生の教育実習ガイダンス（オリエンテーションⅣ）にて配付予定）。

V. 免許状の授与申請について

卒業時に免許状の授与を希望する者は、一括申請の手続きを行わなければなりません。一括申請手
続きとは、大学が学生個人に代わって申請書を取りまとめ、茨城県教育委員会に一括して申請手続き
を行うもので、卒業時に免許状を取得する唯一の方法です。（一括申請手続きの時期及び方法は、例
年11月頃掲示にて周知します。）

一括申請手続きを行わない者は、卒業後に、個人で住所地（帰省先）の都道府県教育委員会に申請
することになります。個人申請の手続きでは、卒業した年の5月以降にならないと受け付けてくれな
い場合が多いようです（詳細は各都道府県教育委員会の指示を受けてください。）。

※編入学生の場合は、一度学務係の窓口までお問い合わせください。

VI. 1年次で修得すべき科目について

以上のことから、教育職員免許状の取得を希望する学生にとって以下の科目は必修となります。阿見地区では開講されませんので、できるだけ1年次のうちに修得してください。

施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法 情報処理概論	2単位 2単位
(理科の場合) 教科に関する科目	物理学 (物理学) 化学 (化学入門) 生物学 (生物学の基礎) 地球科学 (地表環境の地学)	2単位 2単位 2単位 2単位
教職に関する科目	中等教育教師論 教育の本質と理念	2単位 2単位

生物生産科学科 「教科に関する科目一覧」

取得希望の免許に応じて、○印の付いた開設授業科目を必ず修得し、かつ総修得単位数が36単位になるように履修してください。開設授業科目欄に「(教養科目)」とあるもの以外は、農学部専門科目です。

(注)当学部では「教科又は教職に関する科目」がありませんので、全て「教科に関する科目」で修得することになります。

高一理科

科目区分	必修	開設授業科目	単位数	総修得単位数	備考
物理学	○	物理学(教養科目)	2	36	物理学は教養科目の授業題目「物理学」を履修すること。
		水と土の力学入門	2		
		力学	2		
化学	○	化学(教養科目)	2		化学は教養科目の授業題目「化学入門」を履修すること。
		飼料資源学	2		
		動物生化学	2		
		基礎生化学	2		
		一般化学	2		
		基礎有機化学	2		
		続・一般化学	2		
生物学	○	生物学(教養科目)	2		生物学は教養科目の授業題目「生物学の基礎」を履修すること。
		作物機能形態学	2		
		動物機能形態学	2		
		植物育種学	2		
		遺伝学	2		
		応用昆虫学	2		
		応用動物学	2		
		発生生物学	2		
		動物微生物学	2		
		地学	○		
基礎土壌学	2				
土壌物理学	2				
物理学実験 (コンピュータ活用を含む)		農業生産システム学実験実習	1	「化学実験」は2年次以降、阿見キャンパスで集中実験として開講する(但し、卒業単位に	
化学実験 (コンピュータ活用を含む)		化学実験	1		
		動物科学実験Ⅰ	2		
生物学実験 (コンピュータ活用を含む)		生物学実験	1		
		応用動物昆虫学実験	1		
地学実験 (コンピュータ活用を含む)		土壌物理実験	1		

高一農業

科目区分	必修	開設授業科目	単位数	総修得単位数	備考
農業の関係科目		農学入門	2	36	キャリア開発論(2単位)は隔年開講となり、阿見キャンパスにおいて夏休み中に開講する(奇数年度開講予定)。
		農学基礎(食料)	2		
		農学基礎(生命)	2		
		農学基礎(環境)	2		
		農学実習	1		
		栽培学	2		
		畜産学	2		
		食用作物学	2		
		作物学実験	1		
		蔬菜学	2		
		果樹学	2		
		園芸学実験	1		
		植物病原微生物学	2		
		植物病理学実験	1		
		動物生殖学	2		
		動物科学実験Ⅳ	2		
		動物栄養学	2		
		動物保健衛生学	2		
		動物行動学	2		
		動物育種学	2		
食品機能学	2				
畜産物科学	2				
職業指導	○	キャリア開発論	2		

資源生物科学科 「教科に関する科目一覧」

取得希望の免許に応じて、○印の付いた開設授業科目を必ず修得し、かつ総修得単位数が36単位になるように履修してください。開設授業科目欄に「(教養科目)」とあるもの以外は、農学部専門科目です。

(注)当学部では「教科又は教職に関する科目」がありませんので、全て「教科に関する科目」で修得することになります。

高一理科

科目区分	必修	開設授業科目	単位数	総修得単位数	備考
物理学	○	物理学(教養科目)	2	36	物理学は教養科目の授業題目 生物学は教養科目の授業題目「生物学の基礎」を履修すること。 地球科学は教養科目の授業題目「地表環境の地学」を履修すること。 「化学実験」は2年次以降、阿見キャンパスで集中実験として開講する(但し、卒業単位には含まれない)。
		力学	2		
		水と土の力学入門	2		
化学	○	化学入門(教養科目)	2		
		基礎化学(教養科目)	2		
		一般化学	2		
		基礎有機化学	2		
		続・一般化学	2		
		基礎生化学	2		
		食品化学	2		
		生物有機化学	2		
生物学	○	生物学(教養科目)	2		
		分子生物学	2		
		植物育種学	2		
		植物栄養・肥科学	2		
		微生物生態学	2		
		発生生物学	2		
地学	○	地球科学(教養科目)	2		
		基礎土壌学	2		
		土壌物理学	2		
物理学実験		農業生産システム学実験実習	1		
化学実験 (コンピュータ活用を含む)	○	化学実験	1		
		無機化学実験	1		
		有機化学実験	1		
生物学実験 (コンピュータ活用を含む)		生物学実験	1		
		生化学実験	1		
		酵素学実験	1		
地学実験 (コンピュータ活用を含む)		分子生物学実験	1		
		土壌物理実験	1		

高一農業

科目区分	必修	開設授業科目	単位数	総修得単位数	備考
農業の関係科目		農学入門	2	36	キャリア開発論(2単位)は隔年開講となり、阿見キャンパスにおいて夏休み中に開講する(奇数年度開講予定)。
		農学基礎(食料)	2		
		農学基礎(生命)	2		
		基礎生態学	2		
		農学基礎(環境)	2		
		農学実習	1		
		細胞生物学	2		
		遺伝子制御学	2		
		基礎微生物学	2		
		応用微生物学	2		
		食品機能学	2		
		酵素化学	2		
		天然物有機化学	2		
		地圏環境化学	2		
		微生物学実験	2		
		細胞生物学実験	1		
		食の安全学	2		
		代謝生化学	2		
		栄養化学	2		
		食品化学実験	1		
食品製造化学	2				
食品微生物学	2				
食品衛生学	2				
職業指導	○	キャリア開発論	2		

地域環境科学科 「教科に関する科目一覧」

取得希望の免許に応じて、○印の付いた開設授業科目を必ず修得し、かつ総修得単位数が36単位になるように履修してください。開設授業科目欄に「(教養科目)」とあるもの以外は、農学部専門科目です。

(注)当学部では「教科又は教職に関する科目」がありませんので、全て「教科に関する科目」で修得することになります。

高一理科

科目区分	必修	開設授業科目	単位数	総修得単位数	備考
物理学	○	物理学(教養科目)	2	36	物理学は教養科目の授業題目「物理学」を履修すること。
		力学	2		
		水理学	2		
		水理学演習	2		
		土質工学	2		
		水と土の力学入門	2		
		応用力学Ⅰ	2		
		応用力学Ⅱ	2		
		熱力学	1		
化学	○	化学(教養科目)	2		化学は教養科目の授業題目「化学入門」を履修すること。
		一般化学	2		
		続・一般化学	2		
		基礎生化学	2		
		基礎有機化学	2		
生物学	○	生物学(教養科目)	2		生物学は教養科目の授業題目「生物学の基礎」を履修すること。
		作物機能形態学	2		
		応用動物学	2		
		植物育種学	2		
地学	○	地球科学(教養科目)	2		地球科学は教養科目の授業題目「地表環境の地学」を履修すること。
		基礎土壌学	2		
		土壌物理学	2		
		水文学	2		
		測量学	2		
		地理情報学	2		
物理学実験 (コンピュータ活用を含む)		農業生産システム学実験実習	1		「化学実験」は2年次以降、阿見キャンパスで集中実験として開講する(但し、卒業単位には含まれない)。
		水理実験	1		
化学実験 (コンピュータ活用を含む)	○	化学実験	1		
		動物科学実験Ⅰ	2		
生物学実験 (コンピュータ活用を含む)		生物学実験	1		
地学実験 (コンピュータ活用を含む)		土壌物理実験	1		

高一農業

科目区分	必修	開設授業科目	単位数	総修得単位数	備考
農業の関係科目		農学入門	2	36	キャリア開発論(2単位)は隔年開講となり、阿見キャンパスにおいて夏休み中に開講する(奇数年度開講予定)。
		農学基礎(食料)	2		
		農学基礎(生命)	2		
		農学基礎(環境)	2		
		農学実習	1		
		環境保全学	2		
		栽培学	2		
		畜産学	2		
		農地環境工学	2		
		農業水利学	2		
		農業生産システム学	2		
		環境調節工学	2		
		生物生産機械学	2		
		農業経営学	2		
		国際農業論	2		
		比較農政学	2		
		農業史・環境史	2		
		農業食料経済学	2		
		農業食料社会学	2		
		農業気象学	2		
フードシステム学	2				
地域政策学	2				
農業情報学	2				
職業指導	○	キャリア開発論	2		

11.専門基礎科目(水戸地区開講)シラバス

農学入門 Introduction to Agricultural Science							
担当教員	太田寛行, 新田洋司, 黒田久雄					所属	農学部
対象年次	[A] 対象年次: 1年次	開講学期	前期	曜日・時限	金2	単位数	2
クラス	A0クラス	備考	A1001				
概要	農学に関わる人々は、食料、生命、環境などに関わる個別な問題や複合的な課題を総合的かつ有機的に理解し、21世紀を生きる上でますます重要となる資源循環型社会の形成について考えることが必要です。本授業では、食料、生命、環境の科学に関する個別事象のみならず、それらの複合的な知識を習得し、「農学の立場から」私たちが直面する諸課題に対して高い見識と展望を持つ力を養います。						
キーワード	資源環境問題、気候変動、農産物物流、食物連鎖、環境保全型生産技術、おいしさ、食の安全、ポストゲノム、情報伝達、生物多様性、里山、生態系保全						
到達目標	次の4つの区分に分けて、基礎知識の習得と課題探求力の向上をめざします。(1)「いま、なぜ農学を学ぶのか」について各自が答えを出す。(2)農学の根源にある「食」をめぐる科学の基礎を理解する。(3)農学が関わる生命科学の急速な展開に関して、その概要を理解する。(4)生態学や物質循環の知識を基礎として地域や地球環境問題との関係を理解する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (4/11) ガイダンス、私たちを取り巻く環境 (黒田) (4/18) 地域と向き合う農学 (新田) (4/25) 稲と野菜の科学 (新田) (5/9) おいしさの科学 (新田) (5/16) 植物改造の過去・現在・未来 (新田) (5/23) 世界と向き合う農学 (新田) (5/30) 里でのいとなみ (黒田) (6/6) 農地を知り、まもり、つくる (黒田) (6/13) 未来と向き合う農学 (黒田) (6/20) 土・植物・動物のつながりを探る科学 (太田) (6/27) 食の安全を追究する科学 (太田) (7/4) ポストゲノム時代の生命科学 (太田) (7/11) 食の健康の科学 (太田) (7/18) 海のいとなみ (太田) (7/25) 調査レポート発表会 (太田、新田、黒田) 16(8/1) 調査レポート発表会 (予備日) 						
予習・復習のポイント	授業計画の項目の予習と復習は、教科書を活用すること。また、茨城大学での研究事例も紹介するので、配布資料がある場合は、それに関する知識や考え方を自ら開拓するようにすること。教員への質問も活発にしてください。						
履修上の注意	学生はグループに分かれて、調査レポートを作成し、グループで発表を行います。グループ内での調査やまとめ方、発表の仕方を議論して進めて下さい。						
成績の評価方法	調査レポートと発表によって評価する。						
教科書・参考書	教科書:「農学入門-食料・生命・環境科学の魅力-」、安田ら編著、養賢堂、3800円+税、2013年、ISBN978-4-8425-05190-0						

農学基礎 (食料) Fundamental agrology (food production & food science)							
担当教員	久保山勉					所属	農学部
対象年次	[A] 対象年次: 1年次	開講学期	後期	曜日・時限	木5	単位数	2
クラス	A0クラス	備考	A1002				
概要	作物(食用作物、園芸作物など)や動物(家畜など)を、高品質で安全な生産物(食料など)として持続的に生産し、利用するための教育、研究や技術開発を行っている農学部教員団が、各々の専門分野の研究や技術革新の動向について講義を行い、初年次生の食料に関する理解を深め、各専門分野に関する好奇心を涵養する。						
キーワード	作物、園芸、動物、家畜、食料生産、バイオテクノロジー、食品、食料問題						
到達目標	食料の生産、加工、利用について、また、それらに関する課題の概要を理解し、農学を学ぶ上で基礎となる一般的な知識を身につける						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 植物の遺伝資源と育種 (久保山) 食用作物 (浅木) 野菜 (東尾) 果樹 (井上) 植物の病害 (阿久津) 食料生産と昆虫 (北嶋) 家畜の行動と管理 (安江) 家畜の飼料と栄養 (青柳) 動物の疾病 (中島弘) 動物の遺伝資源と育種 (森) 畜産のバイオテクノロジー (金澤) 畜産物の利用 (宮口) 食品の化学 (長南) 食料自給と生産技術 (佐藤) 世界の食料生産と食料問題 (中川) 						
予習・復習のポイント	授業の復習を行い、疑問点については自ら調べ、解決出来ない疑問点は教員に問い合わせて理解を深めること。						
履修上の注意	毎回の授業後の課題で評価が行われ、期末試験は行わない。授業への集中力が求められる。						
成績の評価方法	毎回の授業後に出される課題の成績と授業への取り組みを総合して評価する。						
教科書・参考書	教科書は定めない。授業中に資料を配付し、適宜、参考書の紹介を行う。						

農学基礎（生命） Fundamental agrology (life science)							
担当教員	成澤才彦, 西原宏史, 久留主泰朗, 小島俊雄, 大久保武, 豊田淳				所 属	農学部	
対象年次	[A] 対象年次：1年次	開講学期	後期	曜日・時限	金2	単位数	2
ク ラ ス	A0クラス	備 考	A 1 0 0 3				
概要	農学分野における生命科学の位置付け、重要性などと共に具体的な研究内容を平易に紹介する。						
キーワード	生物の多様性、遺伝子操作、植物の生理機能、動物の生体機能調節、動物のこころと遺伝子、微生物バイオテクノロジー						
到達目標	多角的な視点から生命活動に関わる生化学、化学、遺伝学など様々な分野を学修することで、農学における生命科学の概要を理解する。						
授業計画	<p>生命科学の基礎編</p> <p>1. 生命と生命科学（成澤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命とは何か ・生物の多様性 ・生命と環境 <p>2. 生命科学とバイオテクノロジー（久留主）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝情報の流れ ・遺伝子を操作する ・遺伝子操作の現状 <p>生命科学の応用編</p> <p>3. 生命科学の現状と展望・植物（小島）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物とは？—生命科学から見える植物の姿— ・植物の生理機能—光合成・代謝・栄養— ・持続可能な農業と植物育種 <p>4. 生命科学の現状と展望・動物（大久保、豊田）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の生体機能調節—変えないために変えること— ・実験動物と生命科学 ・動物のこころと遺伝子 <p>5. 生命科学の現状と展望・微生物（西原）</p>						
予習・復習のポイント	理解出来なかった内容に関しては、オフィスアワーやメール等を利用し、教員への積極的な質問を通じ、復習をすること。						
履修上の注意	教科書は用いず、適宜配布する資料を用いて授業を行う。						
成績の評価方法	担当教員毎に小テスト、レポート等で評価する。						
教科書・参考書	講義の際に紹介する						

農学基礎（環境） Fundamental agrology (environment science)							
担当教員	牧山正男				所 属	農学部	
対象年次	[A] 対象年次：1年次	開講学期	後期	曜日・時限	木2	単位数	2
ク ラ ス	A0クラス	備 考	A 1 0 0 4				
概要	農業や環境の問題は、人の活動が原因であり、人に影響を与える事柄です。現在、我々が直面する農業・環境に関する問題がどのような構造で生起しているのか、どのような影響を受けているのか、どのようにその問題を克服しようとしているのかについて、4つのトピックにわたって紹介します。						
キーワード	農業問題、環境問題、地域、持続可能性、有機農業、植物工場、震災復興、エネルギー問題						
到達目標	農業や環境の問題に対して、様々な視点から見ることにより、その問題の多様さや複雑さを理解すること。						
授業計画	<p>1. 農業と環境（基礎）農業・農村の多面的機能 牧山</p> <p>2. 農業と環境（基礎）農業・環境問題の歴史と展望 伊丹</p> <p>3. 農業と環境（基礎）地球環境問題と持続可能な開発 中川</p> <p>4. 農業と環境（基礎）水環境問題 吉田</p> <p>5. 農業と環境（応用）有機農業と環境保全型農業：日本における現状と政策 西川</p> <p>6. 農業と環境（応用）世界における潮流と主要論点 西川</p> <p>7. 農業と環境（応用）農業が環境負荷を与える場合 黒田</p> <p>8. 農業と環境（応用）植物工場 岡山</p> <p>9. 3.11からの復興 東日本大震災が農業・農地に与えた災害について 黒田</p> <p>10. 3.11からの復興 放射能汚染への農地管理対策 小松崎</p> <p>11. 3.11からの復興 津波に被災した農業・農村の復興～仙台平野を事例に 牧山</p> <p>12. 地域とエネルギー 農業とエネルギー 内田</p> <p>13. 地域とエネルギー 藻類を利用したエネルギー生産 朝山</p> <p>14. 地域とエネルギー 農山村地域におけるエネルギーの生産と利用 小林</p> <p>15. まとめ 伊丹</p>						
予習・復習のポイント	各講義の概要を配布するので、その内容やキーワードに関して新聞、書籍、インターネットなどを通じて調べる。復習は、講義の内容で不明な点について各自、書籍等で調べ、不明な点がないようにする。						
履修上の注意	特になし						
成績の評価方法	レポートおよび試験による						
教科書・参考書	講義の中で指定する						

Ⅲ 教育プログラム

根力（ねぢから）育成プログラム履修要項

1) 「根力育成プログラム」について

本プログラムは、大学が学生の就業力＝根力の育成を支援することを目的とします。就業力というのは、社会に出て働いていく力、社会人としての基礎的な力を指しています。茨城大学では、基礎的な力という意味でそれを「根力」と呼ぶことにしました。

「根力」を構成する様々な能力は表1に示されています。表1から分かるように、「根力」を構成する能力は授業科目履修を通して育まれるものばかりではありません。本プログラムは、授業科目の履修ばかりでなく、課外での、就職のための様々なガイダンス・講習・民間職業体験の受講やクラブ・サークルなどの団体活動、さらにはアルバイト等就労経験などを通して、学生自身が自覚的・計画的に「根力」を身に付けていくことを目指します。

本プログラム修了のためには、①表2に示す根力育成プログラム科目から9単位（うち7単位が必修）を修得することと、②意識的・計画的に根力を身に付けるために「農学部根力育成ポートフォリオ」に取り組むことが必要です。

農学部根力育成ポートフォリオに取り組み、必要単位数を修得した者には、卒業時に「根力育成プログラム修了証」を交付します。

2) 「根力育成プログラム」履修科目について

本プログラムの対象となる授業科目は表2のように構成されています。

(a)「主題別ゼミナール」と「情報関連科目」（「フレッシュマン・ゼミナールⅠ」と「フレッシュマン・ゼミナールⅡ」ともいいます）は1年次で履修します。各2単位（計4単位）が本プログラムとして必修であり、同時に農学部卒業要件単位としても必修です。これらの科目は受講クラスが指定されます。入学時の履修ガイダンス、履修要項をよく理解して履修してください。

(b)「ステップアップ系科目」は2年次で2単位履修します。2単位が本プログラムとして必修であり、同時に農学部卒業要件単位としても必修です。表2のステップアップ系科目として開講される授業科目の中から1つを選んで履修してください。これらの科目は教養総合科目の中の就業力育成・ステップアップ系科目として開講されます。入学時の履修ガイダンス、履修要項をよく理解して履修してください。2科目（4単位）とも履修した場合、2単位分は根力育成プログラム修了要件（9単位）に含められませんが、通常総合科目と同様の取扱ができます。

(c)「根力強化／実践科目」では2年次～4年次の間にインターンシップ（1単位：必修）を含めた3単位以上を修得してください。いずれの科目もこのプログラムの認定要件科目であると同時に、通常の専門科目であり、農学部卒業要件単位に含めることができます。専門課程についてのガイダンス、履修要項、科目ごとのガイダンス・掲示に注意して履修してください。

根力育成プログラムのカリキュラムマップを表3に掲げます。

3) 「農学部根力育成ポートフォリオ」について

「根力」は授業科目の履修を通じてだけで身につくものではありません。学生生活全般、つまり規則正しい生活や、クラブ・サークルなど課外活動、就職のためのガイダンス・講習、企業での体験就労、アルバイトなど、とりわけ、自発的に計画して行う活動や、他人との共同・協働活動が社会人としての基礎力・根力を育てるのにたいへん有効だと考えられます。

ポートフォリオは、自らのそうした活動の記録をその都度残すことで、大学生活の節目々々でそれらの記録から自らの「根力」能力の蓄積を評価し、もっと伸ばしたい能力を考えながら、次の期の活動を計画することに役立てようとするものです。「農学部根力育成ポートフォリオ」は、web上に各自がフォルダーをもち、web上のファイルで、そうした活動の記録や評価が行えるようにしました。

「根力育成プログラム」を修了するためには、規定の単位を修得するだけでなく、「農学部根力育成ポートフォリオ」に取り組むこともその要件となります。

ポートフォリオの活用方法については、フレッシュマン・ゼミナールⅠのなかで説明しますが、最低限の要件として、「学修PDCA」と「キャリアPDCA」への記入を毎年度、決められた時期に行うようにして下さい。

4) 根力育成プログラムへの登録について

根力育成プログラムで卒業時に「根力育成プログラム修了証」を交付してもらうためには、本プログラムへの履修登録が必要になります。本プログラムへの履修登録は2年次4月の阿見地区での2年生ガイダンス時に行います。

表1

根力の構成要素

1. 基礎的素養	
読み	文章読解能力、論理的思考力、分析力
書き	文章作成能力、論理的思考力、分析力
IT能力	コンピュータおよびインターネットの活用スキル
コミュニケーション能力	説明能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション
2. 社会生活力	
生活力	自立した生活を実践できる力(食生活における栄養管理を含む)
人間関係構築力	生活を送る上で必要な、人間関係を円滑するための力。
情報収集力	生活を送る上で必要な、情報がどこにあり、どのようにすれば入手できるかを把握する力
3. 行動力	
主体性	物事に進んで取り組む力
働きかけ	他人に働きかけ巻き込む力
実行力	目的を設定し確実に行動する力
抵抗力	物事に流されず、疑問に思い抵抗する力
4. 考える力	
課題発見能力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
イマジネーション力	課題が抱える影響、課題解決方法の影響など、状況をイメージする力
課題解決能力	課題の本質を捉え、適切な解決方法を提示する力
5. チームワーキング能力	
発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
規律性	社会のルールや人との約束を守る力
ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

表2

根力育成プログラム対象科目

プログラムステップ		授業科目
根力養成 科目	フレッシュマンゼミナール (1年次)	主題別ゼミナール ・フレッシュマンゼミナールI:通年(2単位:必修) 情報関連科目(情報処理概論) ・フレッシュマンゼミナールII(2単位:必修)
	ステップアップ系科目 (2年次)	総合科目(就業力育成・ステップアップ系科目) ・キャリア教育と大学(2単位:選択必修) ・生命倫理(2単位:選択必修)
根力強化/ 実践科目	プログラム関連科目 (2~4年次)	専門科目 ・インターンシップ(1単位:必修) ・食農教育論(2単位:選択) ・実用英会話(2単位:選択) ・キャリア開発論(2単位:選択) ・地域連携プロジェクト実習(1単位:選択)

表3

根力育成カリキュラムマップ

	1年		2年		3年	4年
	前期	後期	前期	後期		
	ポートフォリオ					
根力養成 科目群	フレッシュマンゼミナールI、II		ステップアップ系科目			
根力強化/ 実践科目群					地域連携プロジェクト実習	
					キャリア開発論	
					食農教育論	
					実用英会話	
					インターンシップ	
課程外	課外活動 民間インターンシップ 各種資格取得講座 職業関連講座 就職支援センター各種ガイダンス ボランティア活動 クラブ・サークル等課外活動 等					

食のリスク管理教育プログラム ～健康な食生活のための体系的教育～ 履修要項

1) 趣旨

「農場から食卓までの食の安全管理」を体系的に教育するプログラムです。食の安全にかかわる分野は、これまでも各学科で取組まれてきた教育内容ですが、その最先端科学を農学部 of 全学生を対象に受講できる教育プログラムとして編成したものです。

2) 目的

農場から食卓までの一連の流れの中で食の安全性確保の仕組みを実践教育により学ぶ「食の生産管理実習」、各分野の最先端技術をディベート講義で行う「農産物総合リスク論」、革新的農業技術のリスクを総合的に学修させる「食の安全学」、食品の生産から加工、流通をへて最終消費に至る流れ全体を学ぶ「フードシステム学」を開講し、食の安全にかかわる専門科目や「インターンシップ」とともに履修することにより、食のリスクを合理的に判断し、一般国民に適切に伝達できる「食の安全ファシリテーター」を育成します。

3) プログラムを通じて得られる能力

農学部を卒業すると学士（農学）の学位を得ることが出来ます。このことで、農学分野に必要な素養を身に付け、学士課程（学部レベル）卒業者に必要な基礎的素養を得ることが出来ます。その上で更に、このプログラムを通して、「食の安全ファシリテーター」として活躍できる以下のような能力を養成します。

- ①「食生活」「食の安全」に関わる分野についての知識基盤を有する
- ②「食の安全性」を自ら合理的に判断できる能力
- ③「食の安全に関わる課題」を探求できる能力
- ④「食の安全性」について自立的に問題解決できる能力
- ⑤食のリスク管理（リスクアセスメント・リスクアナリシス・リスクコミュニケーション）の手法を用い、国民一般に適切に伝達できる能力
- ⑥食の安全ファシリテーターとして、指導的役割を果たせる能力



4) プログラム概要

本プログラムは2年次から農学部（阿見キャンパス）に移り、履修することになります。2年次生以降は、所属学科の各カリキュラムで選択することとなります。

このプログラムは、卒業することと併せて、2年次生から4年次生までの期間で指定する授業科目を修得することで修了します。

プログラムは、次のとおりプログラムコア科目、プログラム関連科目から構成されます。

コア科目、専門科目ともに所属する学科カリキュラムの課程表に記載が無い科目は、自由履修科目として認定されます。

- ① プログラムコア科目：農学部専門科目として開講される授業科目のうち、プログラム必修科目です。
- ② プログラム関連科目：農学部専門科目として開講される授業科目のうち、プログラムの目的に合致するものとして、指定する選択必修科目です。

表1 プログラム修了までの学修プロセス

学年	卒業に向けた学修プロセス	プログラム修了までの学修プロセス
1年次生前期	教養科目学修 専門基礎科目学修	
後期	教養科目学修 専門基礎科目学修	
2年次生前期	カリキュラムに配属 教養科目・専門科目学修	コア科目学修 食の生産管理実習
後期	専門科目学修	フードシステム学 食の安全学
3年次生前期	専門科目学修	農産物総合リスク論 インターンシップ
後期	専門科目学修	関連専門科目 指定する農学部専門科目12単位
4年次生前期	専門科目学修	
後期	専門科目学修	
	卒業 学士（農学）の学位授与	プログラム修了 「食の安全ファシリテーター」修了証の授与

※各科目の開講状況は、年度によって異なります。詳細は、当該年度の時間割や履修案内を参照してください。

5) 授業科目及びプログラム修了要件

プログラムを修了するためには卒業要件を満たすことに加えて、下表のコア科目（8単位）と関連科目12単位（3科目群から各2単位）を修得する必要があります。

区分	単位区分 科目群	授業科目	年次	学期	単位	備考
プログラム コア科目 (8単位必修)	必修	フードシステム学	2	後	2	
	必修	食の安全学	2	後	2	
	必修	食の生産管理実習	2	前	1	集中
	必修	農産物総合リスク論	2	前	2	
	必修	インターンシップ	3	通年	1	
プログラム 関連科目 (3科目群からそれぞれ 2単位以上、合計12単 位以上履修すること)	生物生産学 関連科目群	食用作物学	2	後	2	
		作物機能形態学	2	後	2	
		資源工芸作物学	3	前	2	
		果樹学	2	後	2	
		蔬菜学	2	後	2	
		生産技術学	2	後	2	
		動物微生物学	2	前	2	
		飼料資源学	2	後	2	
	食品学 関連科目群	食品化学	2	後	2	
		栄養化学	3	前	2	
		食品機能学	3	前	2	
		食品製造化学	3	前	2	
		食品衛生学	3	後	2	
		公衆衛生学	3	前	2	
		畜産物安全学	3	前	2	
		畜産物科学	3	前	2	
	環境・ 政策学 科目群	農地環境工学	3	前	2	
		農業生産システム学	2	前	2	
		農業食料経済学	3	前	2	
		農業食料社会学	3	前	2	
		食品流通システム学	3	後	2	
		共生社会システム論	2	前	2	
		国際農業論	2	後	2	
		農環境政策学	2	前	2	

《注意》年度により開講する学期・時間割は変更となる可能性があります。

6) 履修上の注意事項

- 1) これらの科目は、集中授業として開講されるものもあります。集中授業の場合、開講日程は追って掲示板でお知らせします。また、集中授業日程が、必修科目や教職科目の日程と重なることもありますので、注意してください。
- 2) このプログラムの履修にあたっては、学生教育研究災害保険に加入し、担当教員からの指示に従うことが必要です。
- 3) このプログラムを履修する者は、2年次4月のガイダンス時に履修届を提出してください。修了要件を満たした学生には、農学部長名で「茨城大学農学部食の安全ファシリテーター認定証」が与えられます。また、4年次には就職活動等への利用希望者に対して認定証の取得見込証を発行します(但し、プログラムコア科目「食の生産管理実習」、「食の安全学」および「フードシステム学」に加えて、プログラム関連科目を8単位以上取得していることが必要です)。

7) プログラムに関する相談窓口

- ① プログラム内容及び授業科目内容について
茨城大学農学部附属フィールドサイエンス教育研究センター
小針大助
電 話 : 029-888-8705
E-mail : kohari@mx.ibaraki.ac.jp
- ② 履修について
農学部学務係
電 話 : 029-888-8522

ファシリテーター認定証取得見込証の交付を希望する学生（卒業見込証明書発行可能なものに限る）は、記入後、以下の申告書をコピーし、成績証明書と一緒に農学部学務係へ提出すること（提出時期は4年次4月以降とする）。

平成 年 月 日

食のリスク管理教育プログラム 「食の安全ファシリテーター」認定用取得単位申告書

学 科： _____

学生番号： _____

学生氏名： _____ ⑩

携帯番号： _____

「食の安全ファシリテーター」を修得するため、以下の授業を履修しましたので、届け出ます。

初年次からの食のリスク管理教育プログラム関係授業科目一覧（平成 年 月 日時点）

区分	授業科目	単位 区分	単 位	履修年次		
				2	3	4
プログラム コア科目	食の生産管理実習	必修	1			
	フードシステム学	必修	2			
	食の安全学	必修	2			
	農産物総合リスク論	必修	2			
	インターンシップ	必修	1			
プログラム 関連科目	①	専門科目 (8単位以上)				
	②					
	③					
	④					

□取得見込証を希望します（取得見込証の発行は、プログラムコア科目「食の生産管理実習」、「食の安全学」および「フードシステム学」に加えて、プログラム関連科目を8単位以上取得しているものを対象とする）。

IV. 学生生活

1. 保健室

農学部では、健康で快適に学生生活が送れるように、健康相談や健康指導等を農学部管理棟 1F の保健室で常勤の看護師が対応しています。

看護師常駐時間

月～金 8:30～17:15 (昼休み 12:00～13:00) ※土・日曜日、祝日、夏季休暇及び冬季休暇(年末年始)を除く

水戸キャンパスでは保健管理センターが利用できます。医師も常駐しています。

● 健康診断

健康診断には、定期健康診断、特殊健康診断があります。

[定期健康診断]

毎年1回、実施しますので必ず全員受診してください。都合で受診できない場合は事前に保健室の係にご相談ください。

受診日は1年次は保健管理センター、2年次以降は保健室からの掲示などにて確認してください。

未受診の場合には、奨学金、実習、就職及びその他の事情で健康診断証明書が必要になった場合でも発行されません。各自の負担により医療機関を受診し、健康診断証明書を発行してもらうことになります。

[特殊健康診断]

毎年1回、11月頃に実施します。該当学生は事前に特殊健康診断申込書で申し込みの上、受診してください。学部4年次以上で有害化学物質(有機溶剤及び特定化学物質等)を扱う学生が対象です。

● 健康診断証明書

奨学金申請、就職試験、受験等により健康診断証明書が必要なときは、学生証(ICカード)を用いて、証明書自動発行機から受けとることができます。証明書自動発行機から発行できないときは、保健室の係にご相談ください。

[証明書自動発行機で発行する場合]

稼働時間：8:30～18:00 (時間外、土曜日、日曜日、休日、祝日は稼働しません。) ※パスワードは、情報処理関連の授業で使用するものと同じです。

[保健室で証明書を発行する場合]

保健室で「証明書交付願」に必要事項を記入、保健室の係に提出してください。

※ 代理人へのお渡しはできません。

● 就職に係る健康診断書

就職先から特に指定がない時には、証明書自動発行機から発行された健康診断書を提出できます。

次の場合、自費により医療機関を受診し健康診断書を発行してもらってください。その際は、保健室の係にご相談ください。

- ・就職先に提出する健康診断書の記載項目について、定期健康診断の受診項目で不足する場合
- ・就職先への提出期日が、定期健康診断実施日より前の場合

● 予防接種

教育実習やインターンシップ等に参加する学生に対して、麻疹（はしか）の抗体検査及び予防接種（対象は抗体陰性者）を受けるよう指導しています。

● 診察・検査・応急処置・健康相談・医療機関への紹介

保健室には応急薬品が常備されていますから、軽度の外傷・風邪の初期の場合など、気軽に利用してください。また、近隣の医療機関の案内や紹介も行っています。

学校医の診察が毎月1回ありますので、気になる症状についての診察や解説、日常生活上の注意など、何でもご相談ください。必要に応じて専門医を紹介します。

その他、必要な場合には、次のような検査ができます。

- 1) 常時行うことができるもの：身体測定・血圧測定・視力検査・体脂肪測定・握力測定
- 2) 医師の指示に基づき行う検査：尿検査・心電図検査

大学内での突然の体調不良やケガが発生した場合は、保健室(TEL:029-888-8529 または 029-888-8519)に連絡してください。

2. 保険制度

学生が大学生活において、傷害を負った場合に対処する保険として、「学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）及び「学研災付帯賠償責任保険（略称「付帯賠償」）があります。学生が安心して教育を受け研究活動できるよう、加入を勧めています。

加入申し込みは保健室で行っております。ご不明な点は、保健室の係にお問い合わせください。

● 学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）

国内外において学生が、正課中、学校行事中、学校施設内、学校施設外で大学に届け出た課外活動中、通学中の事故により身体に傷害を被った場合に対処する保険です。

● 学研災付帯賠償保険（略称「付帯賠償」）

国内外において学生が正課、学校行事およびその往復中で、他人にケガをさせたり、他人の財産を損壊したことにより被る法律上の損害補償に対処する保険です。

付帯賠償の加入は学研災加入者に限られます。

*教育実習及びインターンシップ希望者は学研災と付帯賠償に必ず加入してください。

● 学研災付帯学生生活総合保険（略称「付帯学総」）

学生生活の24時間を補償するもので、病気・ケガ等の保険及び賠償責任保険等学生生活全般に保証範囲を広げた保険です。

付帯学総の加入は学研災加入者に限られます。

3. 困りごとや悩みごとの相談

学生の皆さんが生き生きと学生生活を送ることができるよう、いろいろな困りごとや悩みごとについて、学生相談を行っています。

ささいなことでも、一人で悩まずに問題を一人でため込まないよう気楽に相談してください。もちろん相談内容については、厳しく秘密が守られます。また、相談したことで不合理な取り扱いがされることはありませんので、安心して相談してください。

[茨大なんでも相談室 阿見分室]

なんでも相談室では、学生のあらゆる相談に応じます。

困っていること、悩んでいることがあれば、どんなことでも相談してください。

相談室で話されたこと、また、利用者のお名前は一切外部には漏れることはありません。

なんでも相談室では、まずインターカー（相談受付者。農学部では看護師が担当しています。）が相談内容を聞いて、その内容に応じてより適切な相談員を紹介いたします。

○相談は次のような方法でできます。

*直接来談：農学部管理棟 1F の保健室または学生相談室にいらしてください。

開室時間 8：30～17：00 まで（昼休みは 12：00～13：00）

※土・日曜日、祝日、夏季休暇及び冬季休暇（年末年始）は休み

*電話： 029-888-8528

*手紙：〒300-0393 稲敷郡阿見町中央 3-21-1

茨城大学農学部「茨大なんでも相談室」阿見分室あて

- 相談は、茨大なんでも相談室、同日立分室、同阿見分室、いずれの場所でも受け付けます。
- 開室時間は、時期により変更することがあります。

※茨大なんでも相談室の詳細については、「何か困っていること悩んでいることありませんか」のパンフレットをご覧ください。

[カウンセラーによるカウンセリング]

学生時代は、活動範囲も広がり自分と向き合う機会が多くあります。友達や先輩、後輩との関係、勉強、恋愛、進路のことなど、色々と気になることが増える時期かも知れません。たとえば、「友人ができない」、「対人関係（異性関係）について悩んでいる」、「大学に行く気がしない」、「何もやる気がしない」、「性格のことで悩んでいる」、「将来や自分の生き方について不安を感じる」、「先輩や教員とトラブルがある」などの悩みや不安があるかも知れません。誰でも、自分が困難な状況の渦に巻き込まれてしまうと、冷静な判断ができなくなって、どうしたらよいかさえ分からなくなってしまいます。

カウンセリングとは、人に話を聞いてもらうことで自分の考えを整理したり、自分で自分の置かれている状況を客観的に理解したり、自分はどうしたらよいか、何ができるか、などを考えられるだけの心のゆとりを取り戻すことです。カウンセラーとして、精神科医と臨床心理士が週2回カウンセリングをしております。カウンセリングを希望する場合は、まず保健室で予約を取ってください。

精神衛生上及び
健康上の問題全般

カウンセリング（精神科医）：湯原 昭（日時は後日掲示でお知らせします）
カウンセリング（臨床心理士）：叶 香代（毎週水・金曜日 13:00～16:00）
看護師（保健室常駐の係員）：深谷 美架
※カウンセリングは、予約制です。

*保健管理センターでもカウンセリングが受けられます。

保健管理センター利用案内 <http://www.health.ibaraki.ac.jp/html/mito.htm#top>

4. ハラスメントについて

セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等の防止及びそれらハラスメントに起因する問題が生じた場合に対応するために「ハラスメントの防止等に関する規定」を制定し、学生等の教育研究環境の維持につとめています。

ハラスメントの被害にあった場合は、一人で悩んだりせず、友人など理解ある人や相談員に相談してください。相談員は、相談者のプライバシーを守り、相談内容については秘密を厳守します。相談することによって、不利益が被ることは一切ありませんので、安心して相談してください。

	生物生産科学科	資源生物科学科	地域環境科学科
セクシュアル・ハラスメント アカデミック・ハラスメント	各学科の相談員は4月以降に掲示にてお知らせします。		
<p>【セクシャル・ハラスメントの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職の斡旋や研究指導などを条件に、性的な関係を強要されること <p>【アカデミック・ハラスメントの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究意欲をそがれること ・研究成果やアイデアを流用・盗用されること <p>大学ホームページ http://www.ibaraki.ac.jp/all/sekuhara.htm ハラスメント相談窓口 Tel 029-228-8016</p> <p>☆ 自分が所属する学科以外の相談員に相談してもかまいません。 ☆ 保健管理センターと保健室もハラスメントの相談窓口になっています。 ハラスメントやハラスメント相談の詳細については、「茨城大学は、ハラスメントを許しません。」のリーフレットをご覧ください。</p>			

5. 修学および学生生活上の相談

修学上の問題や学生生活上の相談などがあるときは、迷わずに学生担任または下記の委員に相談してください。

相談内容	生物生産科学科	資源生物科学科	地域環境科学科
修学上の問題全般 (教務委員)	各学科の相談員は4月以降に掲示にてお知らせします。		
学生生活全般 (学生委員)			
<p>【修学上の問題の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業の履修方法(単位のとり方、時間割の組み方等)がわからない。 ○授業が理解できない、ついていけない。 ○研究が進まない。 ○教員免許などの資格のとり方がわからない。 ○留学の仕方がわからない。 ○学部・学科が自分に合わないので、転学部、転学科したい。 ○他大学を受験したい。 <p>【学生生活について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学に行きたくない。留年、休学したい。 ○交通事故にあった、交通事故を起こした。 ○就職活動で困っている。 ○入学料、授業料の免除、奨学金の受け方がわからない。 ○大学院に進むかどうか迷っている。 ○先輩や教員とトラブルがある。 			

6. 農学部における学生支援

農学部では独自に下記の学生支援制度を実施しています。

[阿見オリエンテーション (対象:1年次生)]

目的: 農学部を知り、研究や勉学についての目標設定や意欲向上をはかることを目的としています。同級生や在校生、教職員とのつながりをつくるきっかけともなります。

内容: 「主題別ゼミナール (フレッシュマン・ゼミナール I)」(1年次生対象)の一部として実施します。農学セミナー(大学院生による研究紹介)、施設・研究室見学などをおして、農学部の研究活動や学習の方法や方向性を知ります。オリエンテーションの成果は各自で整理して発表します。

[1年次全員面談 (対象:1年次生)]

目的: 学生担任(下記)が学生の個別面談を行い、勉学や生活について細かな指導をします。

内容: 学生担任(下記)が1年次生全員を対象として個別面談を前後学期に各1回実施します。個々の学生にあった勉学・生活上の指導を行い、4年間をとおして学生を支援しています。

[クラス委員制度（対象：全学年）]

目的：学生の主体的活動を強化するとともに、大学との連携を密接にする制度です。

内容：各学年・各学科から2名を選出します（各学年6名）。クラス委員長は3年次生から男1名、女1名（原則）、副委員長は2年次生から男2名、女2名（原則）、それぞれ選出します。クラス委員は、大学側からの連絡を伝達するとともに、学生の要望を大学側に伝え、定期的に学部長等と懇談します。また、1、2年生歓迎会のとりまとめを行います。全学年のクラス委員が参加するクラス委員会を年2回開催し、学年間の連携も密にします。

[保証人への成績一括送付（対象：全学年）]

目的：学生、保証人、教員が学生の成績情報を共有し、学生の勉学意欲の向上をはかる制度です。

内容：各学期終了後に保証人に成績を送付します（4年次後学期は送付しない）。学生、保証人、教員が学生の成績情報を共有することにより、学生の学習への奨励や激励を行います。なお、保証人への成績送付の可否は、事前に学生に確認して実施します。

[学生担任制度（対象：全学年）]

目的：農学部教員から選出された学生担任が、学生の教務および生活状況を把握し指導します。

内容：農学部では、「4年間同じ教員による学生担任制度」により学生を支援します。学生担任は、講義への出席状況および単位取得状況などを把握し、適切な指導を行うとともに、学生からの相談に対応します。メール等も活用します。

平成26年度農学部新入生学生担任表

学 科	正 担 任	副担任
生物生産科学科	中島弘美、阿久津克己、北嶋康樹、豊田淳	(理学部) 長谷川健
資源生物科学科	成澤才彦、太田寛行、安西弘行、朝山宗彦	(理学部) 渡邊辰矢
地域環境科学科	吉田貢士、小林久、中川光弘、立川雅司	(理学部) 中川尚子

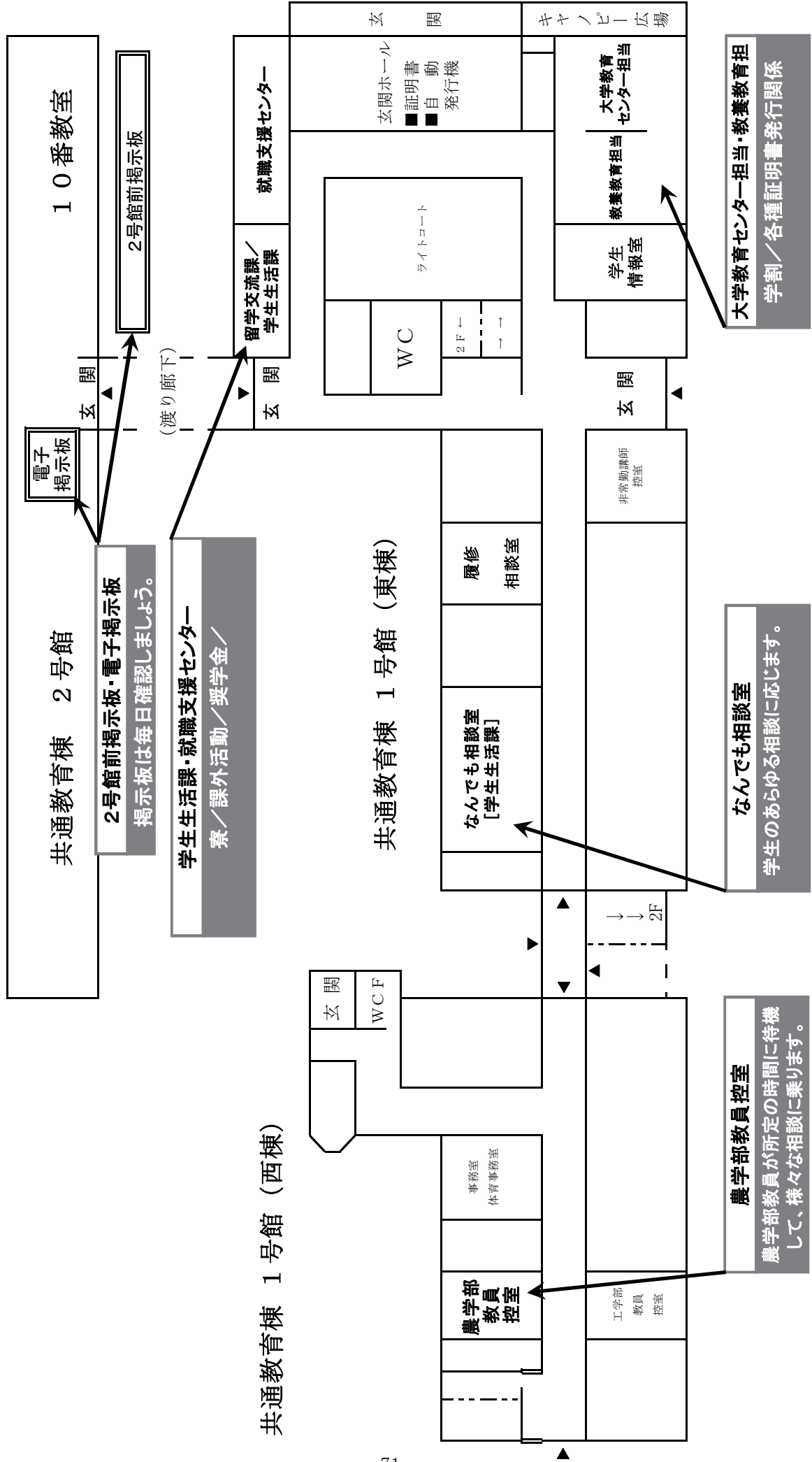
※副担任は、緊急時に対応するため水戸地区（理学部）の教員が支援に当たります。

【memo】

A large rectangular area with rounded corners, containing horizontal lines for writing, resembling a memo pad. The lines are evenly spaced and cover the majority of the page's vertical space.

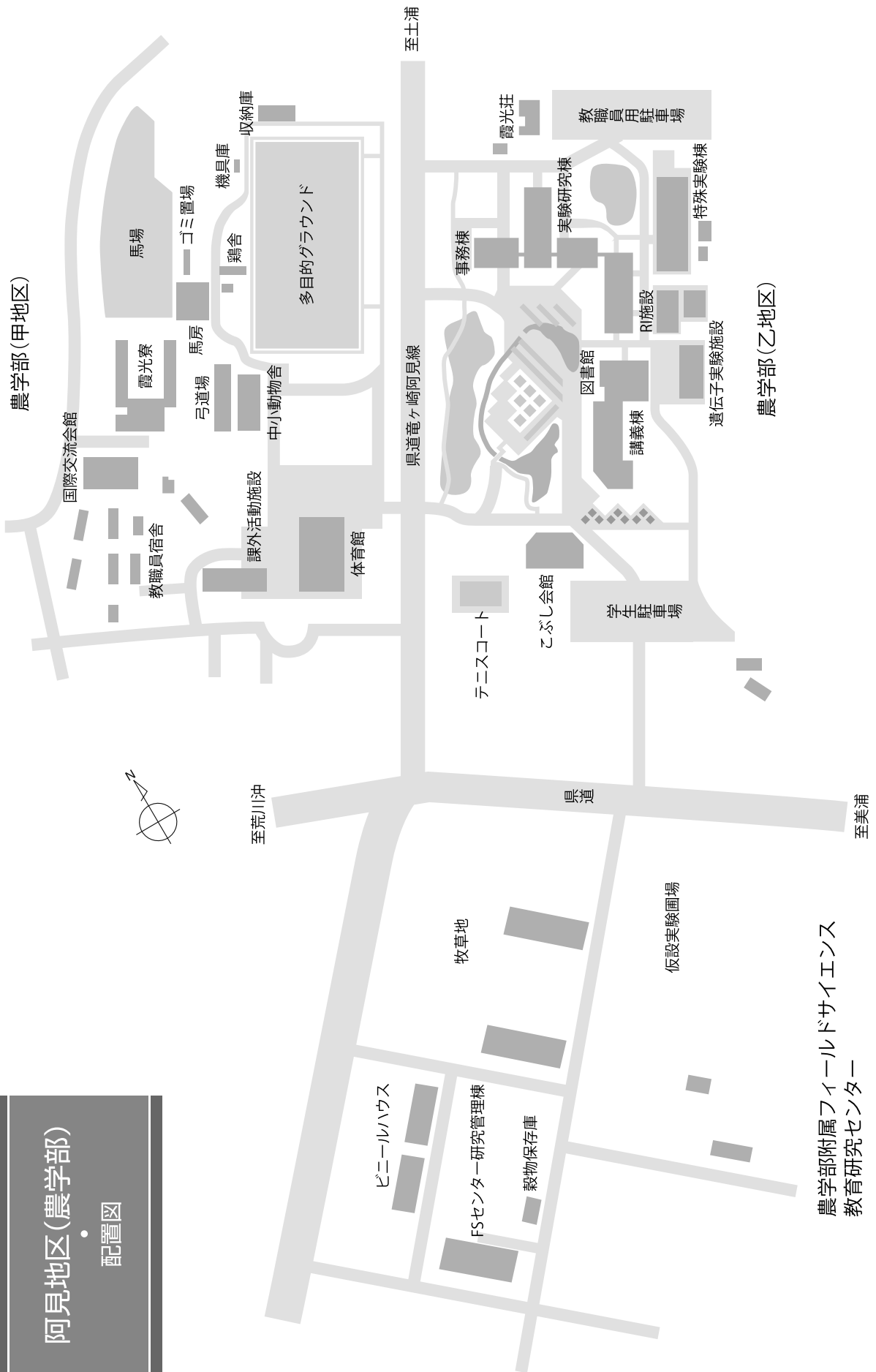
付 録

付録1. 共通教育棟 1・2号館(1階)配置図



阿見地区(農学部)

配置図



農学部附属フィールドサイエンス
教育研究センター

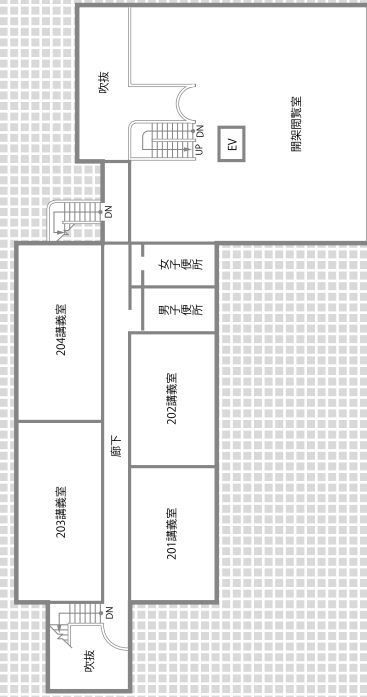
講義棟・図書館

1階案内図



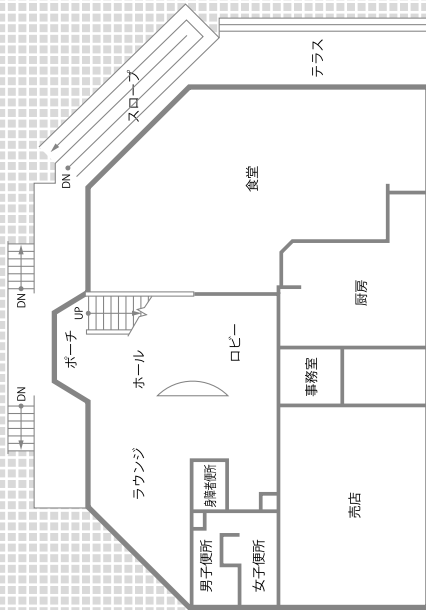
講義棟・図書館

2階案内図



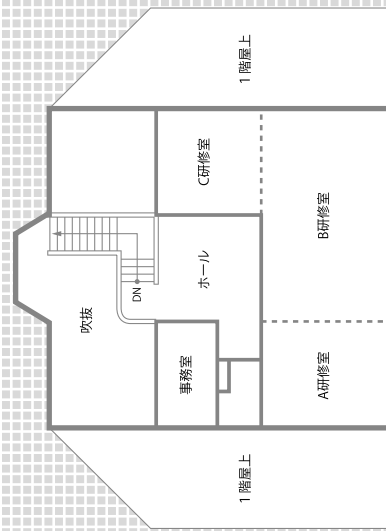
こぶし会館

1階案内図



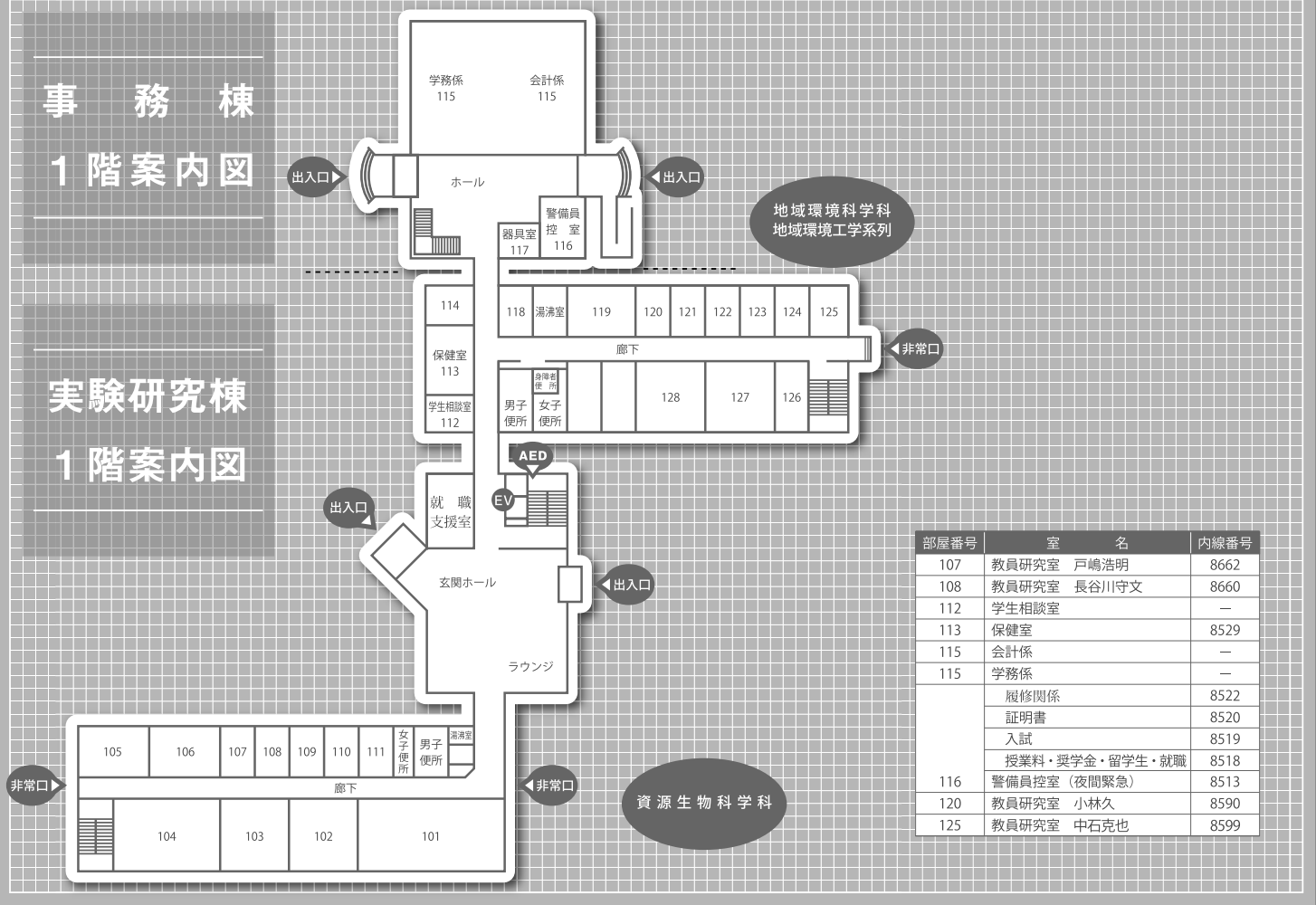
こぶし会館

2階案内図



事務棟 1階案内図

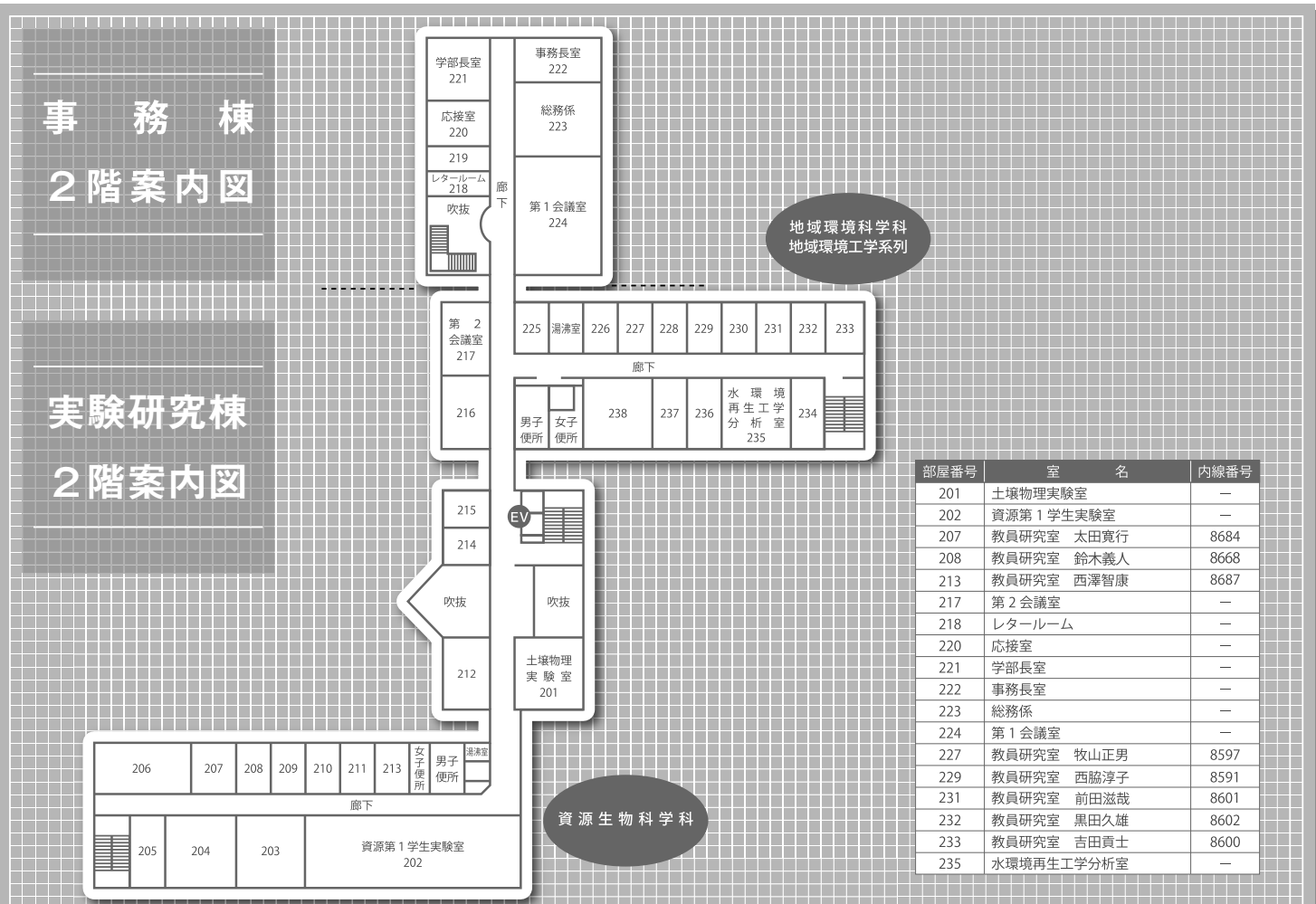
実験研究棟 1階案内図



部屋番号	室名	内線番号
107	教員研究室 戸嶋浩明	8662
108	教員研究室 長谷川守文	8660
112	学生相談室	—
113	保健室	8529
115	会計係	—
115	学務係	—
	履修関係	8522
	証明書	8520
	入試	8519
	授業料・奨学金・留学生・就職	8518
116	警備員控室 (夜間緊急)	8513
120	教員研究室 小林久	8590
125	教員研究室 中石克也	8599

事務棟 2階案内図

実験研究棟 2階案内図



部屋番号	室名	内線番号
201	土壌物理実験室	—
202	資源第1学生実験室	—
207	教員研究室 太田寛行	8684
208	教員研究室 鈴木義人	8668
213	教員研究室 西澤智康	8687
217	第2会議室	—
218	レタールーム	—
220	応接室	—
221	学部長室	—
222	事務長室	—
223	総務係	—
224	第1会議室	—
227	教員研究室 牧山正男	8597
229	教員研究室 西脇淳子	8591
231	教員研究室 前田滋哉	8601
232	教員研究室 黒田久雄	8602
233	教員研究室 吉田貢士	8600
235	水環境再生工学分析室	—

実験研究棟

3階案内図

生物生産科学科
植物生産科学系列



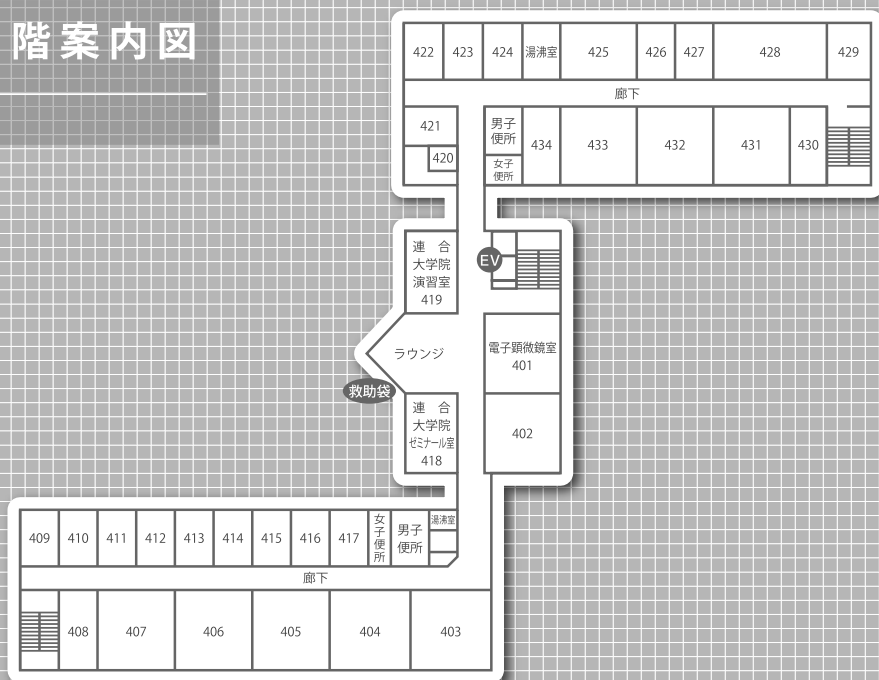
資源生物科学科

部屋番号	室名	内線番号
301	植物生産科学第1学生実験室	8550
302	資源第2学生実験室	8669
307	教員研究室 西原宏史	8685
309	教員研究室 長南茂	8672
309	教員研究室 塩津文隆	8672
313	教員研究室 坂上伸生	8688
314	教員研究室 新田洋司	8551
315	教員研究室 浅木直美	8552
316	教員研究室 井上栄一	8553
317	教員研究室 東尾久雄	8554
321	植物生産科学第2学生実験室	—

実験研究棟

4階案内図

生物生産科学科
植物生産科学系列

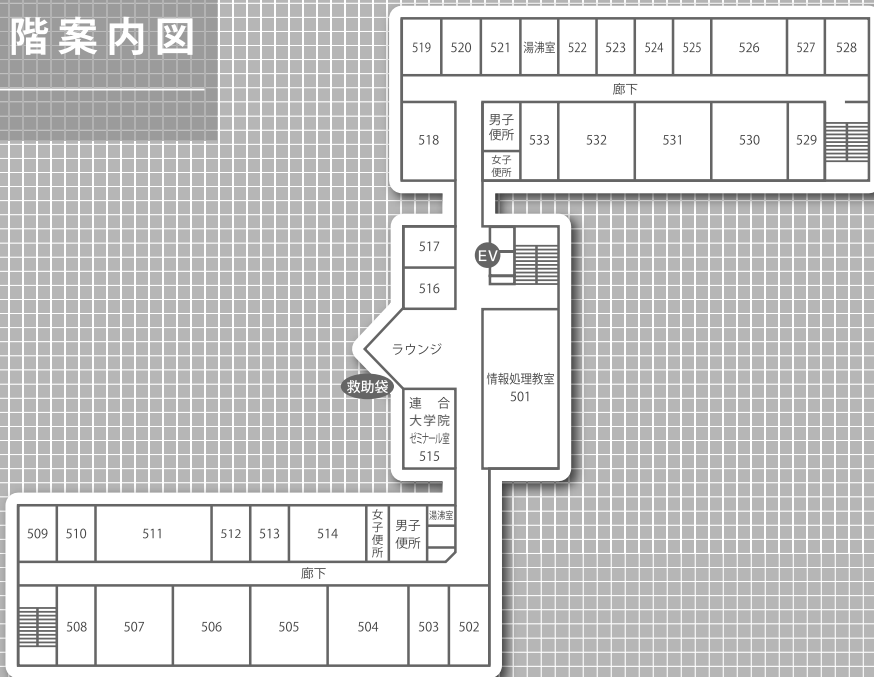


資源生物科学科

部屋番号	室名	内線番号
401	電子顕微鏡室	—
409	教員研究室 小島俊雄	8673
410	教員研究室 白岩雅和	8680
412	教員研究室 高原英成	8681
413	教員研究室 上妻由章	8682
415	教員研究室 米倉政実	8683
417	教員研究室 成澤才彦	8667
418	連合大学院ゼミナール室	—
419	連合大学院演習室	—
421	教員研究室 北嶋康樹	8559
422	教員研究室 後藤哲雄	8560
427	教員研究室 阿久津克己	8561
429	教員研究室 中島雅己	8563

実験研究棟 5階案内図

生物生産科学科
動物科学系列

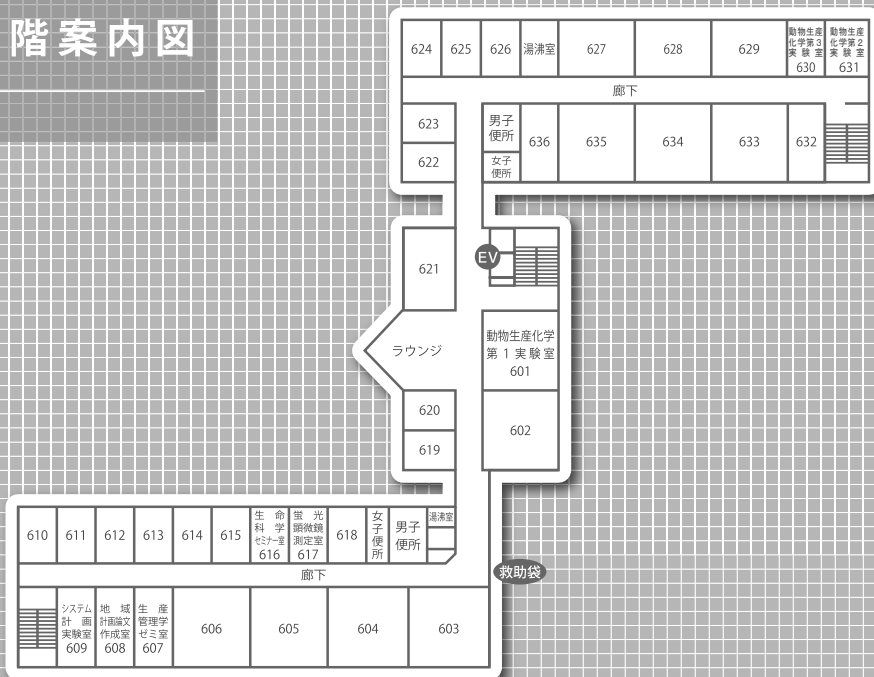


資源生物科学科

部屋番号	室名	内線番号
501	情報処理教室	—
502	教員研究室 岡山毅	8592
509	教員研究室 久保山勉	8643
510	教員研究室 渡部信義	8644
513	教員研究室 久留主泰朗	8646
515	連合大学院ゼミナール室	—
516	教員研究室 安江健	8576
520	教員研究室 上塚浩司	8539
528	教員研究室 中島弘美	8573

実験研究棟 6階案内図

生物生産科学科
動物科学系列

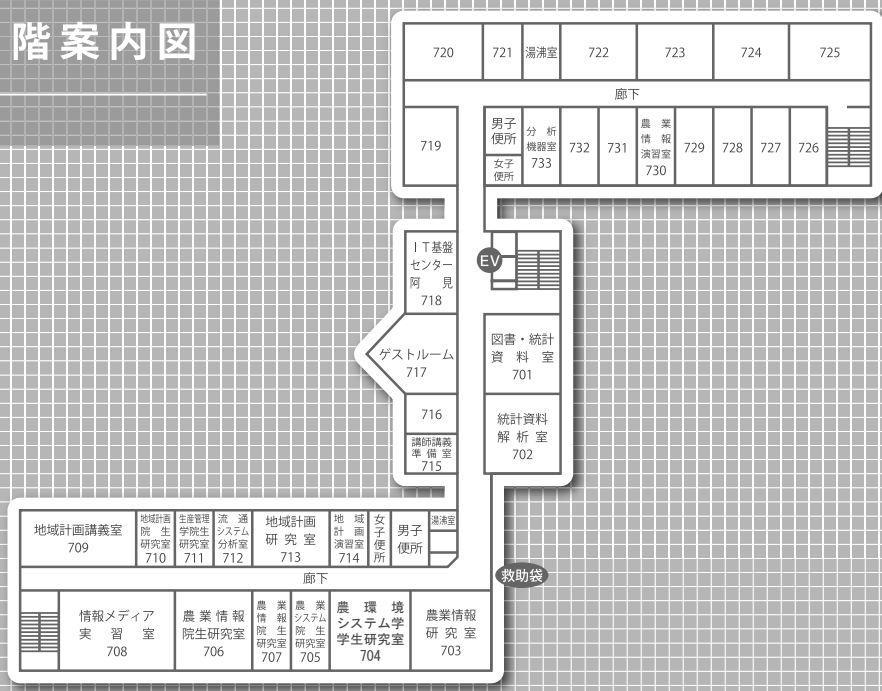


資源生物科学科

部屋番号	室名	内線番号
601	動物生産化学第1実験室	—
604	教員研究室 森英紀	8654
607	生産管理学ゼミ室	—
608	地域計画論文作成室	—
609	システム計画実験室	—
611	教員研究室 朝山宗彦	8651
616	生命科学セミナー室	—
617	蛍光顕微鏡測定室	—
619	教員研究室 金澤卓弥	8655
620	教員研究室 大久保武	8656
621	教員研究室 中川光弘	8637
623	教員研究室 宮口右二	8580
624	教員研究室 豊田淳	8584
625	教員研究室 小川恭喜	8571
627	教員研究室 青柳陽介	8579
631	動物生産化学第2実験室	—

実験研究棟 7階案内図

地域環境科学科
緑環境システム科学系列



地域環境科学科
緑環境システム科学系列

部屋番号	室名	内線番号
701	図書・統計資料室	—
702	統計資料解析室	8610
703	農業メディアシステム学研究室	—
704	農環境システム学学生研究室	—
705	農業システム院生研究室	—
706	農業情報院生研究室	—
707	農環境情報院生研究室	—
708	情報メディア実習室	—
709	地域計画講義室	—
710	地域計画院生研究室	—
711	生産管理学院生研究室	—
712	流通システム分析室	—
713	地域計画研究室	—
714	地域計画演習室	—
715	講師講義準備室	—
717	ゲストルーム	—
718	IT基盤センター阿見	8623
719	教員研究室 田附明夫	8614
724	教員研究室 立川雅司	8615
727	教員研究室 内田晋	8613
728	教員研究室 長澤淳	8638
729	教員研究室 伊丹一浩	8617
730	教員研究室 木下嗣基	8635
733	分析機器室	—

茨城大学農学部 オフィスアワー(平成26年度)

学生からの質問・相談等に応じるため、教員はそれぞれの研究室で待機しています。
この待機している時間を「オフィスアワー」と呼んでいます。
これ以外の時間にも都合の許す範囲で対応します。また、メールでの質問・相談等はいつでも歓迎します。
電話をする場合は、次のとおりダイヤルしてください。

外線電話を利用する場合：029-888-(4桁の内線電話番号)

学科	担当教員	部屋	メールアドレス	内線	オフィスアワーの時間			
					前学期		後学期	
生物生産学	浅木 直美	315	n-asagi@mx.ibaraki.ac.jp	8552	金	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
	新田 洋司	314	nittay@mx.ibaraki.ac.jp	8551	月～金	16:00 - 17:00	月～金	16:00 - 17:00
	東尾 久雄	317	hhisao@mx.ibaraki.ac.jp	8554	火	12:00 - 13:00	火	12:00 - 13:00
	井上 栄一	316	einoue@mx.ibaraki.ac.jp	8553	木	15:00 - 17:00	木	15:00 - 17:00
	阿久津 克己	427	kakutsu@mx.ibaraki.ac.jp	8561	金	13:00 - 14:00	金	13:00 - 14:00
	中島 雅己	429	mnakaji@mx.ibaraki.ac.jp	8563	月	15:00 - 16:00	月	15:00 - 16:00
	後藤 哲雄	422	gotoh@mx.ibaraki.ac.jp	8560	金	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
	北嶋 康樹	421	ykitashi@mx.ibaraki.ac.jp	8559	金	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
	久保山 勉	509	kuboyama@mx.ibaraki.ac.jp	8643	金	15:00 - 16:00	金	15:00 - 16:00
	渡部 信義	510	watnb@mx.ibaraki.ac.jp	8644	木	8:00 - 9:00	木	8:00 - 9:00
	森 英紀	618	mori@mx.ibaraki.ac.jp	8654	火～金	13:00 - 14:00	火～金	13:00 - 14:00
	中島 弘美	528	hiromi@mx.ibaraki.ac.jp	8573	木金	15:00 - 17:00	木金	15:00 - 17:00
	豊田 淳	624	atoyoda@mx.ibaraki.ac.jp	8584	火	12:00 - 13:00	火	12:00 - 13:00
	青柳 陽介	627	yaoyagi@mx.ibaraki.ac.jp	8579	木	12:00 - 13:00	木	12:00 - 13:00
	小川 恭喜	625	yogawa@mx.ibaraki.ac.jp	8571	木	12:30 - 13:30	木	12:30 - 13:30
	安江 健	516	tyasue@mx.ibaraki.ac.jp	8576	金	12:30 - 13:30	月	12:30 - 13:30
	宮口 右二	623	miyaguti@mx.ibaraki.ac.jp	8580	月	11:00 - 13:00	月	11:00 - 13:00
	上塚 浩司	520	uetsuka@mx.ibaraki.ac.jp	8539	月	16:00 - 17:00	月	16:00 - 17:00
	大久保 武	620	ohkubo@mx.ibaraki.ac.jp	8656	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
	金澤 卓弥	619	kanazawa@mx.ibaraki.ac.jp	8655	月	12:00 - 13:00	月	12:00 - 13:00
資源生物生産学	高原 英成	412	takahara@mx.ibaraki.ac.jp	8681	水	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
	小島 俊雄	409	toshiou@mx.ibaraki.ac.jp	8673	金	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
	朝山 宗彦	611	asam@mx.ibaraki.ac.jp	8651	月	12:00 - 13:00	月	12:00 - 13:00
	久留主 泰朗	513	krsy@mx.ibaraki.ac.jp	8646	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
	西原 宏史	307	hiro@mx.ibaraki.ac.jp	8685	金	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
	白岩 雅和	410	shiraiwa@mx.ibaraki.ac.jp	8680	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
	長南 茂	309	chohnan@mx.ibaraki.ac.jp	8672	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
	米倉 政実	415	yonekura@mx.ibaraki.ac.jp	8683	火	13:00 - 17:00	火	13:00 - 17:00
	上妻 由章	413	kouzuma@mx.ibaraki.ac.jp	8682	木	13:00 - 15:00	木	13:00 - 15:00
	戸嶋 浩明	107	toshima@mx.ibaraki.ac.jp	8662	月	12:00 - 13:00	月	12:00 - 13:00
	長谷川 守文	102	morifumi@mx.ibaraki.ac.jp	8660	月	12:00 - 13:00	月	12:00 - 13:00
	太田 寛行	207	hohta@mx.ibaraki.ac.jp	8684	火	12:00 - 13:00	火	12:00 - 13:00
	成澤 才彦	417	kan-moc@mx.ibaraki.ac.jp	8667	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
	鈴木 義人	208	ayoshi@mx.ibaraki.ac.jp	8668	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
西澤 智康	213	nishitom@mx.ibaraki.ac.jp	8687	火	12:00 - 13:00	火	12:00 - 13:00	

学科	担当教員	部屋	メールアドレス	内線	オフィスアワーの時間			
					前学期		後学期	
地域環境科 学 科	牧山正男	227	makiyama@mx.ibaraki.ac.jp	8597	火	16:20 - 17:30	火	16:20 - 17:30
	黒田久雄	232	kuroda@mx.ibaraki.ac.jp	8602	月火木	16:20 - 17:50	月火木	16:20 - 17:50
	中石克也	125	nakaishi@mx.ibaraki.ac.jp	8599	月	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
	小林久	120	qkoba@mx.ibaraki.ac.jp	8590	水	9:00 - 10:30	金	12:00 - 13:00
	岡山毅	502	tsu-okay@mx.ibaraki.ac.jp	8592	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
	吉田貢士	233	ayoshid@mx.ibaraki.ac.jp	8600	木	16:30 - 17:30	木	16:30 - 17:30
	西脇淳子	229	nishijun@mx.ibaraki.ac.jp	8591	火	16:20 - 17:30	火	16:20 - 17:30
	前田滋哉	231	smaeda@mx.ibaraki.ac.jp	8601	金	16:20 - 17:30	金	16:20 - 17:30
	伊丹一浩	729	itami@mx.ibaraki.ac.jp	8617	金	12:00 - 13:00	金	16:20 - 17:30
	立川雅司	724	mtachi@mx.ibaraki.ac.jp	8615	月	13:30 - 14:30	火	13:30 - 14:40
	木下嗣基	720	kino@mx.ibaraki.ac.jp	8628	水	13:00 - 14:00	水	13:00 - 14:00
	田附明夫	719	tazuke@mx.ibaraki.ac.jp	8627	火金	12:00 - 13:00	火金	12:00 - 13:00
	中川光弘	621	mnaka@mx.ibaraki.ac.jp	8637	木	13:00 - 14:30	木	13:00 - 14:30
	長澤淳	728	junwolf@mx.ibaraki.ac.jp	8638	水	10:00 - 12:00	水	10:00 - 12:00
	内田晋	727	uchida@mx.ibaraki.ac.jp	8613	木金	16:20 - 17:30	木金	16:20 - 17:30
	福興徳文				水	13:00 - 14:30	水	13:00 - 14:30
	西川邦夫				月	15:00 - 16:30	月	15:00 - 16:30
	増富祐司				火	11:00 - 12:00	火	11:00 - 12:00
フィールドサイエンス教育研究センター	佐藤達雄	FSC 204	sugar@mx.ibaraki.ac.jp	8704	月	11:00 - 12:00	月	11:00 - 12:00
	小松崎将一	FSC 207	komachan@mx.ibaraki.ac.jp	8707	月	13:00 - 14:00	月	13:00 - 14:00
	小針大助	FSC 205	kohari@mx.ibaraki.ac.jp	8705	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00

(遺伝子実験施設(GRC))

安西弘行	GRC 405	anzai@mx.ibaraki.ac.jp	8742	金	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00
古谷綾子	GRC 406	furutani@mx.ibaraki.ac.jp	8756	金	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00

(プロジェクト教員)

塩津文隆	313	shotsu@mx.ibaraki.ac.jp	8688	火	12:00 - 13:00	火	12:00 - 13:00
------	-----	-------------------------	------	---	---------------	---	---------------

(教育研究振興教員)

坂上伸生	313	nsakagam@mx.ibaraki.ac.jp	8688	金	15:00 - 17:00	金	15:00 - 17:00
------	-----	---------------------------	------	---	---------------	---	---------------

(農学部学務係)

029(888)8522・8519

平成26年度 農学部1年次生時間割（例）

< 前 期 >

	月	火	水	木	金
1講時	英語(A)	主題別ゼミナール (フレッシュマンゼミナールI)	健康・スポーツ		
2講時	未修外国語I		英語(A)	化学(化学入門)	農学入門
3講時		数学(解析学)		{人文} 情報処理概論	社会
4講時	社会 (環境の経済史) 日本国憲法	地球科学(地表環境 の地学)		未修外国語I 微積分入門/基礎(B) (若干名)	人文
5講時	生物学(生物学の基礎) 数学(微積分学初歩) 微積分入門/基礎(B) (若干名)	総合 (食料問題の展望)			

< 後 期 >

	月	火	水	木	金
1講時	英語(A)	主題別ゼミナール (フレッシュマンゼミナールI)	健康・スポーツ 日本国憲法		
2講時	未修外国語II		英語(A)	農学基礎(環境)	農学基礎(生命)
3講時		化学(基礎化学)		自然 物理学(物理学)	総合 日本国憲法
4講時	社会 (環境食料政策学基礎) 日本国憲法	自然 生物学(発展生物学) 数学(環境のための数学)		未修外国語II	人文
5講時	物理学(物理学実験基礎)	総合 (バイオテクノロジーと産業)		農学基礎(食料)	

注1) : (A)と(A), (B)と(B), ...は、同時に受講しなくてはなりません。

注2) : 分野別教養科目(自然)は掲載していません。

農学部 1 年次生用時間割[学生記入様式]

< 前 期 >

	月	火	水	木	金
1講時					
2講時					
3講時					
4講時					
5講時					

< 後 期 >

	月	火	水	木	金
1講時					
2講時					
3講時					
4講時					
5講時					

付録5. 各種事務手続窓口一覧(阿見地区版)

区分	項目	提出書類	提出の時期	提出先
紛失被害	学内で遺失物、所持品紛失、盗難等の被害にあった場合	学務係、守衛室、図書係、生協事務室に届けられていることがありますので、ご相談ください。		
	学生証を紛失、破損した場合	学生証紛失届 学生証再交付願	速やかに	学務係
	証明書発行機、学内パソコンログインパスワードを忘れてしまった場合、変更したい場合	直接 IT基盤センター阿見(実験研究棟7階)にご相談ください。		
証明書	通学定期を購入するときに証明が必要な場合	通学証明書申請カード	受取希望日の3日前(休日除)	学務係
	学割が必要な場合	証明書自動発行機で発行してください。急に停止することがありますので、余裕をもって発行してください。不明な点は学務係にご相談ください。		
	在学証明書が必要な場合			
	成績証明書が必要な場合			
	健康診断証明書が必要な場合			
	入寮・在寮証明書が必要な場合	証明書交付願	受取希望日の3日前(休日除)	学務係
	卒業見込証明書が必要な場合	学部4年次生または修士2年生が発行できます。証明書自動発行機で発行してください。		学務係
カリキュラム	履修に関すること	履修案内を良く読んでください。学務係で相談に応じます。		
	定期試験に関すること	授業担当教員の指示に従ってください。定期試験時間割は掲示で確認してください。		
	成績に関すること	教務情報ポータルシステムで単位修得状況を閲覧できます。学務係で相談に応じます。		
身分異動	学生自身の住所・氏名・電話番号が変更になった場合	学務係に保管してある学籍簿を修正してください。	速やかに	学務係
	保証人が変更、保証人住所が変更した場合	授業料納入保証書(変更届)・学籍簿	速やかに	
	休学する場合	休学願、理由書、学生担任等の記入した意見書	速やかに	
	休学期間を延長する場合	休学延長願、理由書、学生担任等の記入した意見書	速やかに	
	復学する場合	復学届、理由書、学生担任等の記入した意見書	速やかに	
	退学する場合	退学願、理由書、学生担任等の記入した意見書	速やかに	
課外活動	学生団体を設立したい場合	団体届出書、団体員名簿、会則、他	速やかに	学務係
	学生団体を4月以降も団体を継続する場合	団体届出書、団体員名簿、他	毎年5月末	
	文書・ポスターを掲示したい場合	掲示する文書・ポスター	速やかに	
	課外活動等で学内の施設を利用したい場合	教室使用願	速やかに	
	課外活動等で生協食堂を利用したい場合	生協に確認後、「こぶし会館使用申込書」	速やかに	
	課外活動等で用具を使用したい場合	学務係に申し出てください。	数量が多い場合は要予約	
自家用車	自家用車で通学したい場合	自動車入構届出書、任意保険証書(写)、自動車検査証(写)、運転免許証(写)	速やかに	学務係
	車種・登録番号等を変更したい場合	自動車検査証(写)	速やかに	
	交通事故を起こした・遭った場合	学生事故等届、学生教育研究災害傷害保険用の事故報告届	速やかに	

付録5. 各種事務手続窓口一覧(阿見地区版)

区分	項目	提出書類	提出の時期	提出先
経済生活	授業料の減免、分納、徴収猶予を希望する場合	学務係に相談してください。	4月、10月頃 掲示します。	学務係
	奨学金・修学資金を希望する場合	各団体の所定様式	4月、10月頃 掲示します。	
	アパートを探したい場合	学務係で保管しているファイルで閲覧できます。		
	アルバイトを探したい場合			
就職活動等	就職活動の相談をしたい場合	学務係で相談に応じます。また毎週火曜日・木曜日の午後に就職相談専門の相談員が相談に応じます。		学務係
	インターンシップについて相談したい場合			
学生寮	入寮を希望する場合	入寮願	申請時	学務係
	寮費に支払い方法を変更したい場合	寄宿料納入願変更届	変更を希望する 30日前までに	
	光熱水料を支払う場合	寮の会計長にご相談ください。		
	退寮を希望する場合	退寮願	退寮決定後速やかに	
健康管理	具合が悪くなった場合	直接保健室または学務係に申し出てください		
	カウンセラー・看護師に相談したい場合			
	健康に関することを相談したい場合			
	保健室の救急薬品を使用したい場合			
	学生教育研究災害障害保険等に加入したい場合			
	正課、課外活動中、通学途中にケガをして通院入院した場合	窓口に申し出てください。	速やかに	保健室 または学務係
図書館	図書館に関すること	直接図書係に申し出てください。		

茨城大学 農学部

〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1

TEL : 029-888-8519/8522

FAX : 029-888-8545

HP : <http://www.agr.ibaraki.ac.jp/>